









第二冊
目次

天津

① 玉皇閣

② 白衣大寺

③ 永祥寺

④ 万壽莊亭

⑤ 先師廟

北京
⑥ 歷代帝都表

⑦ 密廟

⑧ 天庫寺

⑨ 大成殿

⑩ 辟雍宮

⑪ 雍和宮

⑫ 柘林寺

⑬ 大柘林寺

⑭ 帝王廟

⑮ 白塔寺

⑯ 五塔寺

⑰ 萬壽寺

⑱ 五塔寺

⑲ 五塔寺

⑳ 五塔寺

⑬	通州塔	六十五
⑭	墳墓の種類	
⑮	臥仙寺	八十九
⑯	王泉山	八十九
⑰	(五部宗教談)	
⑱	(金部建築用語)	百
⑲	八大處	百四
⑳	西直門外塔(白塔)	百十
㉑	慈母寺十三重塔	百十四
㉒	(附慈惠寺)	
㉓	西黃寺	百二十
㉔	東黃寺	百二十五
㉕	圓覺寺(智願院)	百二十六
㉖	雍和宮	百二十八
㉗	煙塔寺	百四十二
㉘	妙法寺	百五十二
㉙	日本墳墓(仏式ノ起源)	百五十七
㉚	雍和宮	百五十九
㉛	元サの地圖	百六十二
㉜	警務學堂官舎	百六十五
㉝	白雲觀	百七十三
㉞	十三陵	百八十七
㉟	居庸關	百九十五
㊱	懷柔	二百三
㊲	土木堡	二百七
㊳	宣化	二百十二

玉皇閣

天津

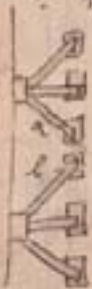
奥殿ヲ清虚閣ト云フ重層ナリ



△牌樓 光緒十七年建立

柳堤胆織今々異常ナリ 固典ニ示カ
如シ

正吻上ニ数條ノ武冠ノ如キモノアリ 柳堤
尾垂木様ノモノノ斗ヨリ三本出ヅル奇
ナリ アトモト相
接シテラツメ
組ノ形ヲ成ス





尾垂木ノ末端

鳳形



屋脊正吻上ノ裝置

○
白衣大寺

○本堂

本尊 如意輪觀音



之



礼拝寺

(回教ノ寺院)

拜殿ノ窓

屋蓋ミドーム状
笛簞へ頗る奇
觀ナリ



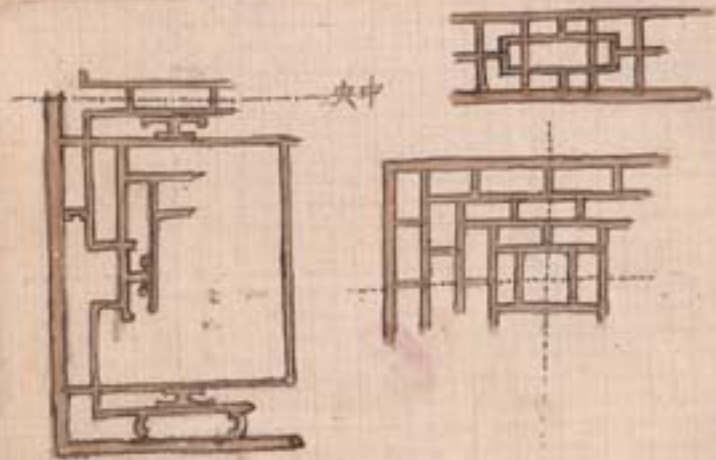
—Z—

この正吻は所謂鯨と、北東京城にすに於てコノ
正吻は……京殿に於ける頗る趣味あるが如シ



虫頭

万壽龍宮

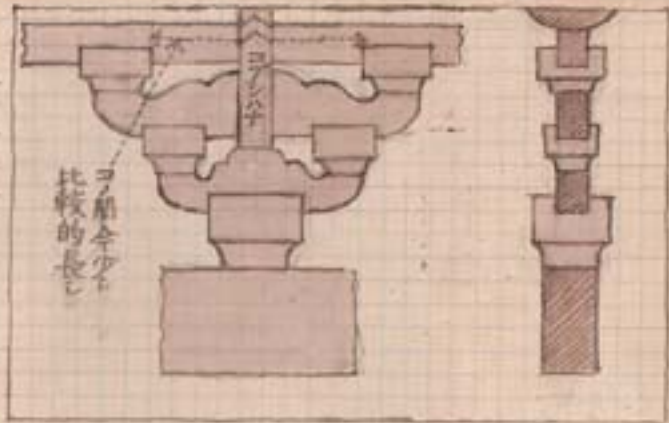


万寿龍亭

乙

嘉定廿四年

コノ間全少
比較的長シ



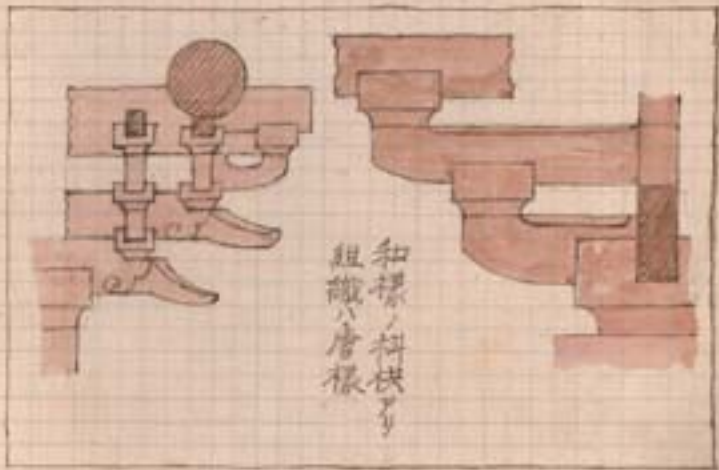
コノ合テ長邊



乙

⑤ 先師廟

コノ門は玉皇閣の門と
全に料枳市り尾崎
本妙はウチリテ突
出ミタリ但し前の方丈
ヶへ出テ陽ナリと八出ス

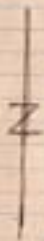


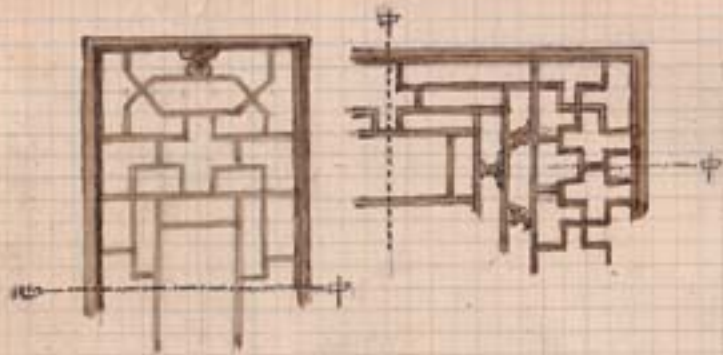
先師齋のナマシ



地藏土菩薩

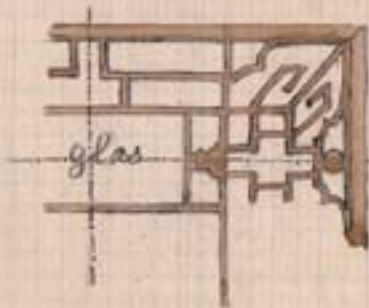
両手中指ト拈
指トノ印





天津芙蓉館ノ窓

中



天津美容館の窓

● 泥屋蓋

一 野垂木ノ上ニお段實ヲ覆フ

一 ツノ上ニ泥ヲ置キ牝瓦ヲ置キ牡瓦ヲ

置ク

一 ツノ上ニ泥ヲ置キ葺草ヲ混スツマリ壁ナリ

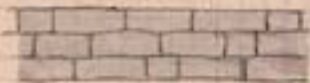
一 上塗ハ黒色ノ漆喰ナリ

一 段ニ葺ヲ用エルヲ甚タ多シ

● 黒煉瓦

普通大のりハ普通の土をその終に焼て堅く極めて脆軟あるものあり

お段實は一種奇妙なり長手三枚毎に木口を積ミ込む



● 烟突

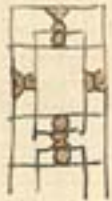
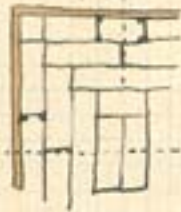
屋根の上に小ちる瓦の塔の如きものある
 煙根の上に小ちる瓦の塔の如きものある
 煙突あるは往々非常精巧なるものあり
 門の両方に對峙するものと一種の装飾とし
 て美觀を与ふ

北京

北京公使館 内宿舎

ノ

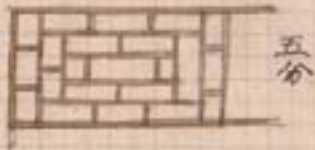
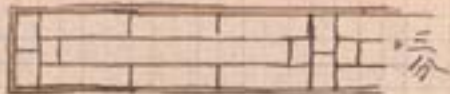
窓櫺



松竹梅

出窓又門上窓(三層)大棟ハ四角ノ代リ
ニ旁物ノ形ヲ載セタリ

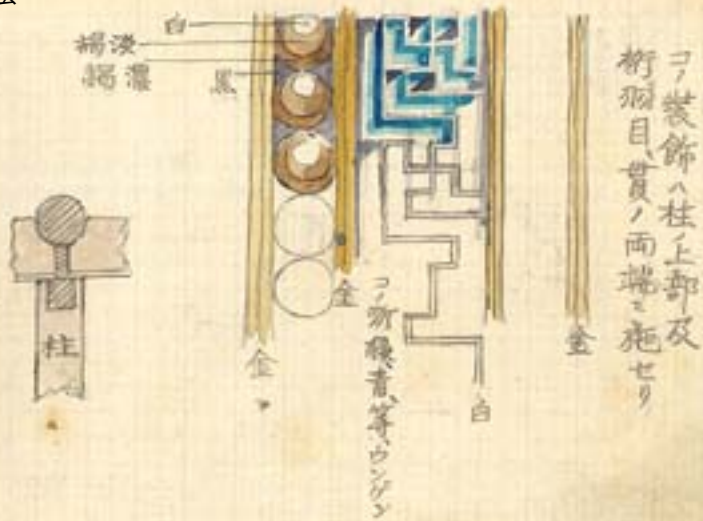
2



支那歴代帝都表

氏又ハ朝	都	位置	備考
伏羲	陳	河南 陳州	
神農	今	直隸 涿州	
黃帝	涿鹿	直隸 涿州	
少昊	曲阜	山東 曲阜	
顓頊	帝丘	直隸 開州	
帝嚳	亳	河南 偃師	
帝堯	平陽	山西 平陽府	
帝舜	蒲阪	全 蒲州	
夏	書邑	全 安邑縣	
殷	亳	見上	
西周	鎬	陝西 西安府	漢代長安
東周	洛邑	河南 河南府	漢代洛陽
秦	咸陽	陝西 咸陽縣	
西漢	長安	陝西 西安府	
東漢	洛陽	河南 河南府	
三國	生		
蜀	成都	四川 成都府	
吳	建業	江蘇 江寧府	明代南京
西晉	洛陽	見上	
東晉	建業	見上	
南北朝	全		
宋	全		
齊	全		
梁	全		
陳	全		
北魏	平城	山西 大同府	

清	明	元	南	北	宋	代	五	唐	隋	北	齊
			宋	宋	後	後	後	後		北	齊
					漢	晉	唐	梁			
全	全	全	全	全	全	汴	洛陽	汴	長安	大興	長安
全	全	全	全	全	全	見上	見上	河南	見上	陝西	河南
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全

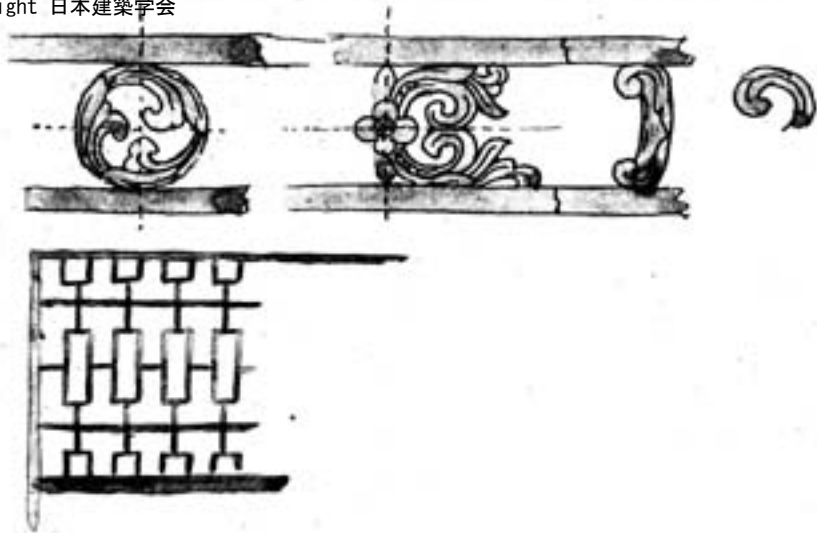




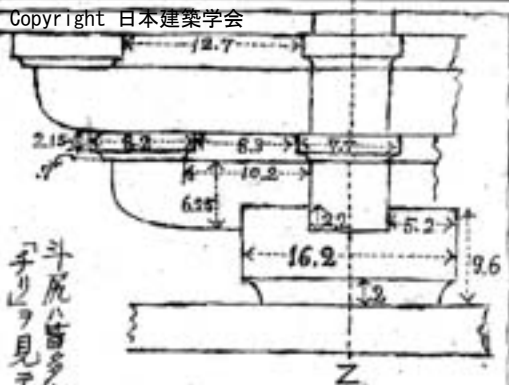
「コノ面積何レモ
大差ナシ」



●黒芝麻胡同
警務亭邊三官舎に於ケルモノ

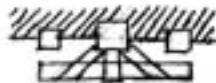


斗尻ハ皆多少肘木ヨリ
ナリヲ見テ出シアリ



天寧寺
八角十三重塔
基砌一片長三十八尺五寸
上砌一片長三十一尺半
塔礎一片長二十七尺
全高 二百九十九尺
塔礎勾欄下斗拱

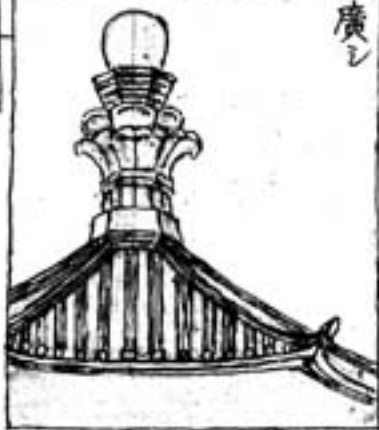
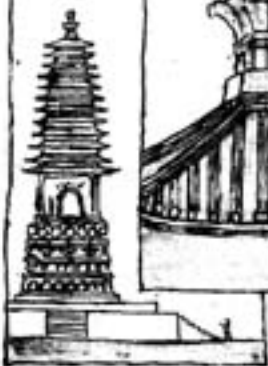
塔^は三重、下層四方にアーチ形ありて
 アーチの左右に仏像あり上にも仏像あり、
 其他の四面には格連子形あり左右及
 上に仏像あり、斗拱は隅肘木あり、



塔の下に蓮座あり、其下は勾欄あり、
 其下は腰組あり、その下はバチルあり、其下は
 二三段彫ルダングあり、其下は再びバチルあり、
 其下は二三段あり、其下は二重の砌あり、
 九輪は特殊あり

下層柱は龍の卷き付きタル形あり、
 勾欄等には繊巧ある装飾模様あり、
 然れ共隋代の遺物として考ふるべき点
 あり

塔ヲ九輪



廣シ

コノ塔スツトハノ一種トシテ見ルベシ、十三重ハ
即チ「オレ」發達セルモノ乎、内部ハ土ニ
テ充填シアリ、
最初ノ重丈ケ屋根少シ



軒二重、地タル干瓦、ひえん垂木角、瓦ハ
碧料瓦あり
十三重ノ輪廓ハ曲線をあらわし

コ塔の傍に小ぶる八角七重の塔あり
其意匠全然十三重のもの相全し、
大破は歸せり

その附近墓標多し、左に圓するものハ
其一あり、しお碑を以て造る



石頭 イシトウ

櫓子 イシノコ

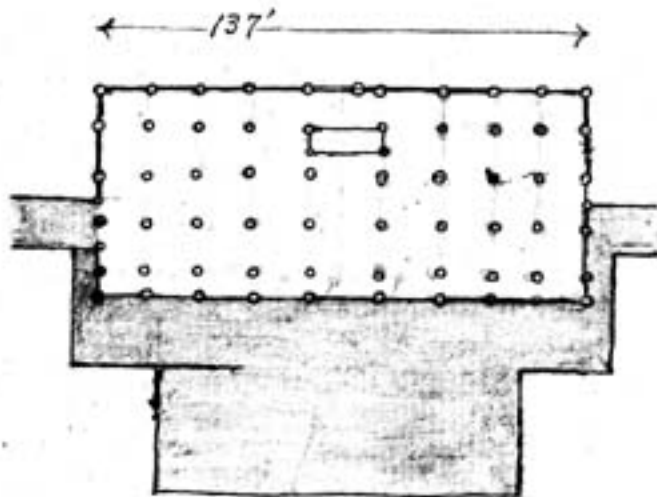


蔓瓜子

之

〇コノ形市街ノ店ノ軒ノ上ニ多ク用キラル、
又馬車ノハメニモアリ、
店ノ軒上ノ欄杆

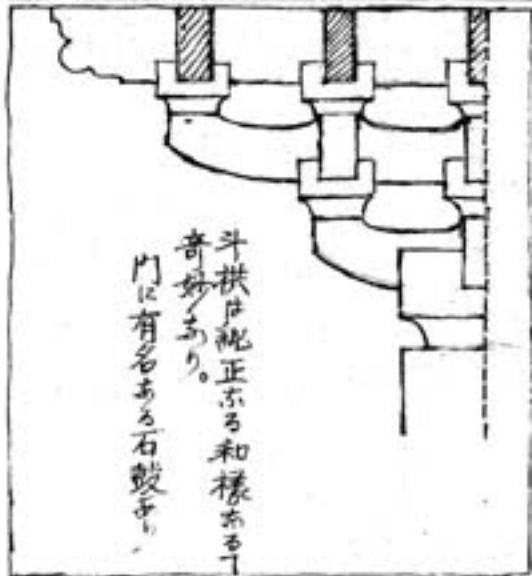




△大成殿のプラン

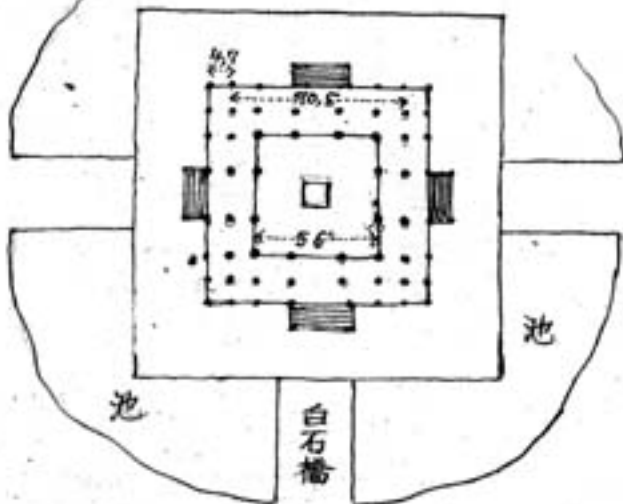
大成殿

△大成殿の門

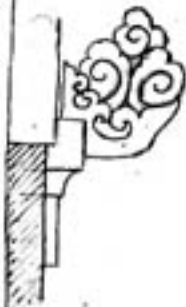


斗拱は純正なる和様ある
奇跡あり。
門に有名なる石鼓あり。

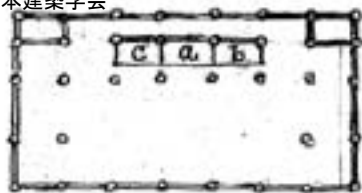
碎雍宮



重層、方形、漆金四頂
の町貴の上欄間にもめし刻の装飾あり

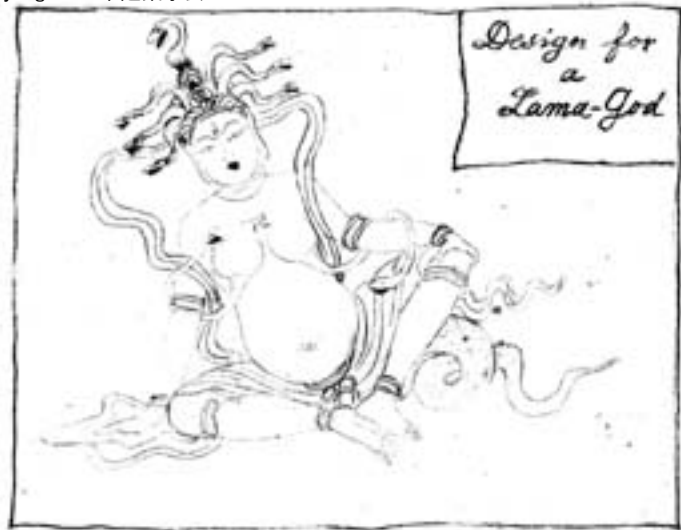


宮前
魏樓



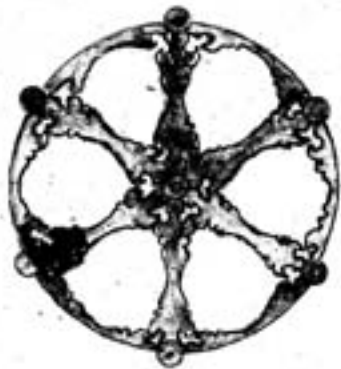
B 阿弥陀如来
 a 釈迦牟尼
 C 大日如来

雍和宮(總名)
 雍和宮(堂名)
 七門四面
 天井格天井の格間に龍の代りに輪寶を
 画けり。辻に多少の三鈷の意ある模様を
 画けり。



雍和宮の後は永佑殿あり
その後には法輪殿あり

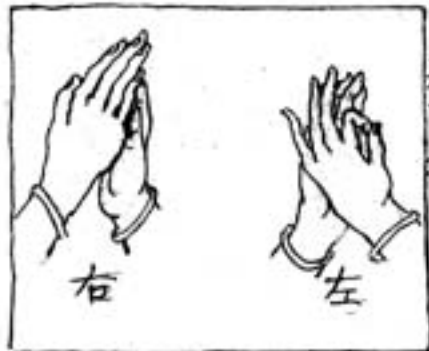
4



栢林寺本堂扉花被門



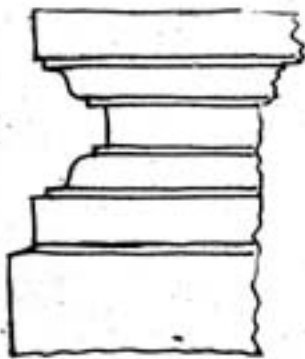
栢林寺本堂



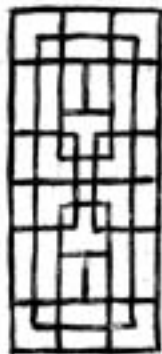
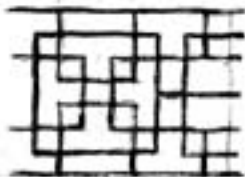
栢林寺、本尊阿彌陀及藥師の面腋立
の印相左の如し

乙

本寺之佛像總テ容姿端正他テ多
ク傳テ見ズ、其宗派ハ栢林宗ト稱ス
レトモ詳ナラズ
卓ニ喇嘛ニ於テ多ク見ル所ノ八宝
ヲ陳列セルハ一奇ナリ、四壁ニ佛画ヲ懸
ケタリ



警務學堂官舎



●
大鐘寺

大明永樂帝の鑄造

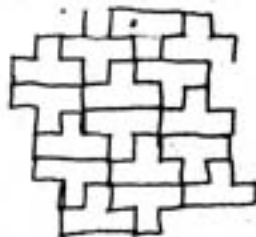
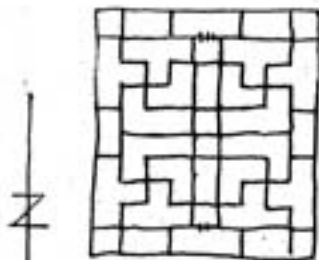


重八万四千斤

内外に經文ヲ刻出セリ
意匠ハ甚タ之シキヲ見ル

八角
至一丈二尺一寸
金高廿四尺
厚六寸五分
支那ノ鐘ハ
ハスコノ形ヲ
據テ別ニ坐ナシ





中島義之氏決

38

○開封ニテ見ルベキモノ

朱徽宗ノ宮殿、

城堡、古寺、

壁画

寺アリ、北印山ヲ過シ

○洛陽

雅故アル建築多シ

長安ニ至ルニ穴居多シ

○幽谷関 大ニ見ルヘシ

○潼関 全上

○花陰縣 大花山アリ、高峯ヲ直ニ立セリ、
モ奇ナリ、山上ニ寺アリ、

コニ唐ノ刺史ノ刻セル大石碑アリ、ソノ

廟ハ尤モ見ルニ足ル、地廣く遺物多シ

○臨潼

温泉(熱水)アリ、今も

○長安

コノ関穴多シ

皇城ニイン官衙アリ、

終南山ニ古寺アリ

渭水ヲ渡ルニ至リ、奇ン堂宇セリ

○咸陽

咸陽宮遺跡ヲ考ふ

○鳳翔

○望鶴

陳倉城ヨリ棧道ニ通ス
コレヨリ蜀棧道ト云フ

○留覇

留覇ヨリ茅葺ニ留侯廟アリ、尤モ雄ナリ
唐明皇帝ノ御アリ

○漢中

天竺山ニ登ルベシ

○沔陽

水牛渡馬ノ古跡建ツ所見ルベシ

○劍閣

七子ノ自然ノ峯アリ、屏風ノ如シ

○漢州

大ナル宮アリ

○新都

事未ダナリ

○成都

去後時代ノ宮城、宋ノ修儀ニカニ恢復アリ、

南門外ニ孔明ノ廟アリ、唐ノ石碑アリ、

○峨眉山

（嘉慶ヨリ登ル丁ト云フ人アリ）
大建ツ榮タリ

○成親イ東夏井大井アリ
山塩ヲ産出ス

○隆昌

○重慶又(山崎領)アリ

里の常多シ

重慶より江岸、萬里ノ所アリモ

有望地アリ

○變文

コノ所ハ麻ノ園ニシモ毛ノ事ナシトイフ

○野火

コノ形極メ似タリ

○直昌

○沙市

山東岫王新灘アリ、新赤壁中ノ尤佳ナ

モナリ

巫山峽

太原路

昌平より長城ヲ越ヘ(居庸関ノ内ヲ見エ)

八達峯(明)

宣化

張家口(秦代ノ長城ヲ見ル)

大同府
五臺山
正定

○涿州

金ノ遺物ニツアリ(塔)

涿州ヨリニ三里ニ三義廟アリ、

○保定

遼ノ遺物(碑)アリ、

○定州(松峯氏アリ)

涿州ノ塔ヨリモ高キ塔アリ

○正定

○邯鄲ニ廟アリ

殆郷岳飛ノ自筆ノ石碑アリ



双塔寺

(京都西長安門大街路北)

西塔 八角九重 元代建立す称ス、

下層八角ノ後ニ柱アリ上ニ科拱ヲ

置久ニ手先、軒二重、地内、甍檐角、

二層以上科拱無し、

基礎四形、

皆磚ヲ以テ築ホ造セリ、

九輪東塔ニ均シ

東塔 八角七重

扁額曰

佛日圓
照大禪
師可庵
之靈塔

基礎梯形八角

初唐ニ手先、偶時木ヲ用ユルヲ西塔

ニ似タリ、二層以上全樣ノ科拱ヲ反

水煙四枚

西塔



東塔

九輪



旗又、軒三重、地内、八元、八角

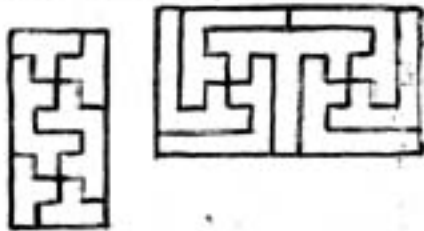


二重請花ノアラン

雙塔慶壽寺香爐之火袋



重修ノ碑ニヨレバ乾隆十三年
着子全二十九年落成トアリ



帝王廟

長九楹 三十六間
中五楹 十三間
重層四注

乙

1/4:10:3

12

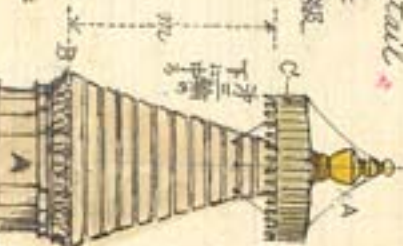
白塔寺

B, detail

C, detail

D, 線

E, 階級



十三條の輪



A'

木製構の彩り



A

7/8 x 9/16 = 4/3

水十枚
(二十八寸)



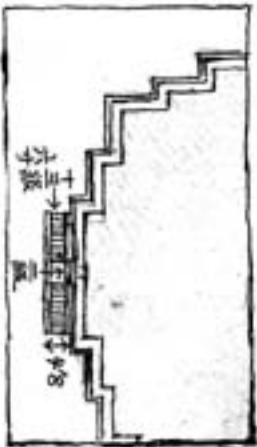
煉瓦七枚

八枚

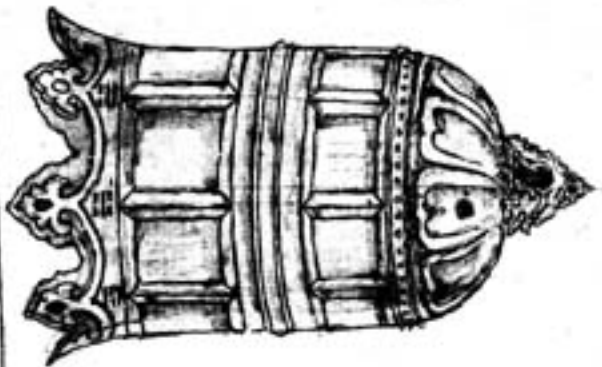
鉄帶煉瓦二枚の厚

煉瓦大

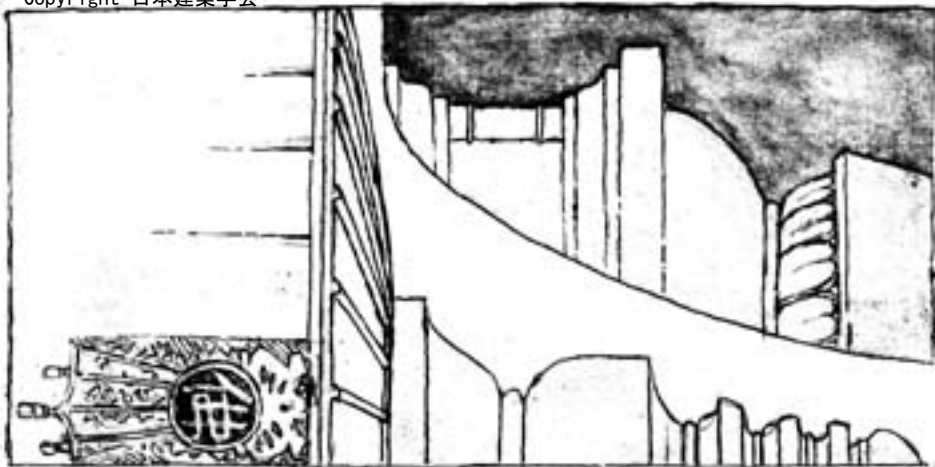
長七寸五分
中野二
厚二寸五分
五五分
厚五五分
四寸五分
(二枚)



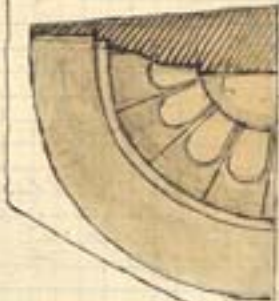
42



明代の鐘

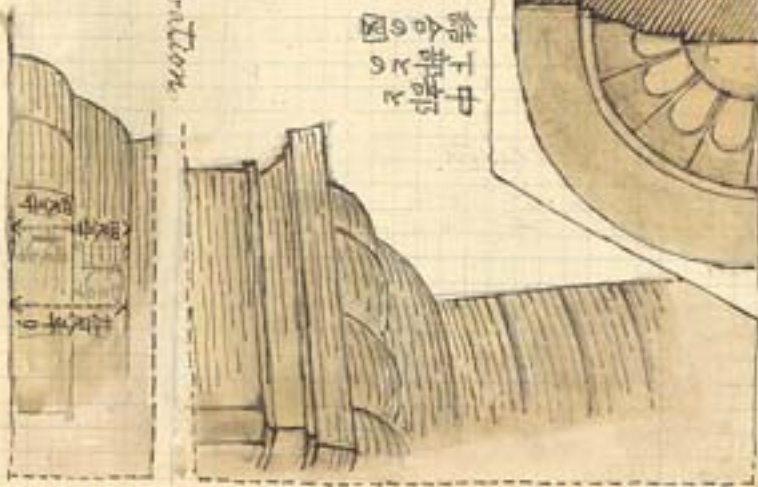


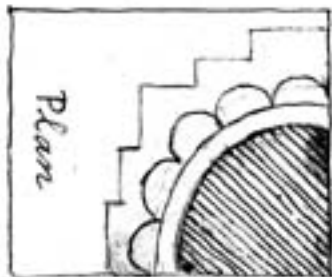
葦ノ裏面

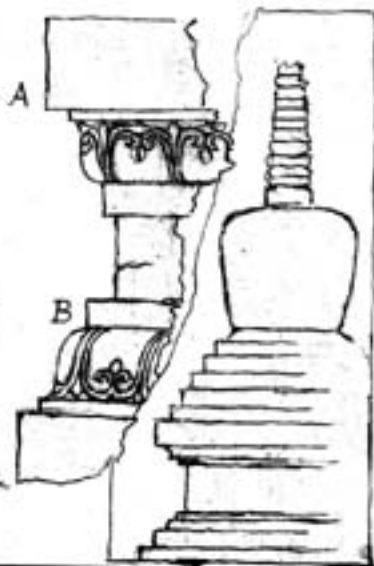
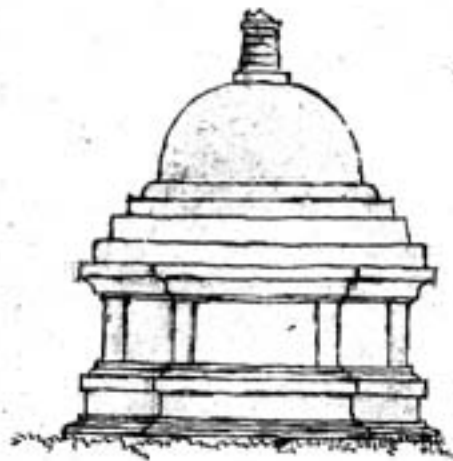


中
部
下
部
の
図

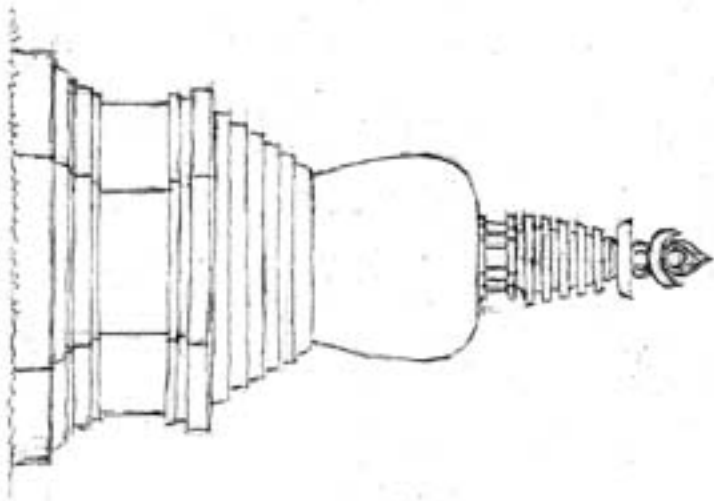
Elevation

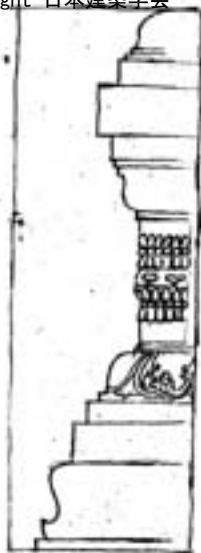




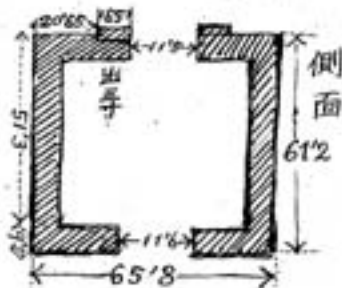


●五塔寺附近之
墳墓





英王
が

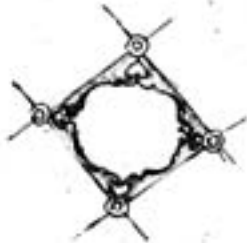
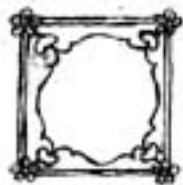
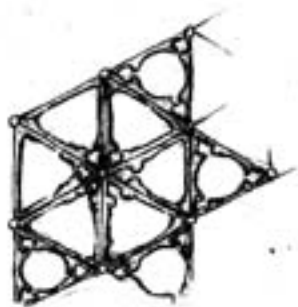


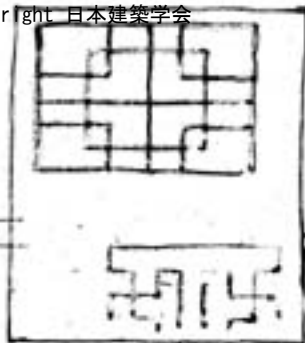
前面

側面

五塔寺

萬壽寺





コノ分ヶ方
定セテ
意匠アリ



● 碧雲寺

西山玉皇頂大廟可狂

卧佛寺大廟

二位用反

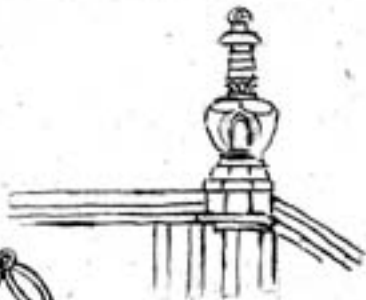
車上用什 共 四 千

(コレハ余ト岩原ト、看車一のト三人ニテ
藍龍殿ノ飯館ニ入り朝飯ヲ食ヒ
タルトモ、館ノ跟斑見の勘定ヲ示シタ
ルモノナリ)

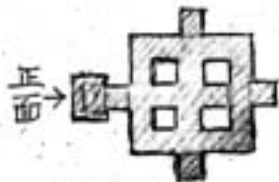
— 乙 —

△ 羅漢堂

コノチランニ奇ナリ、中央ニ樓アリ、日本ニテ
モ博物館様ノ陳列場ノチランニ應用
シ得ルモノト考フル。

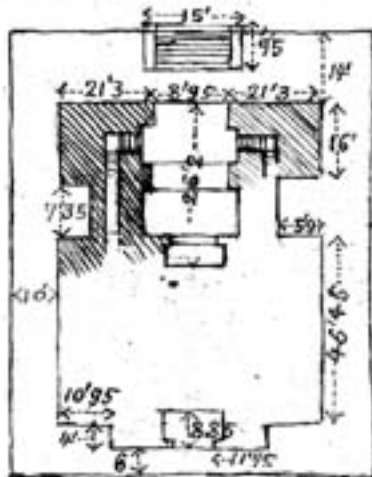


隅にスツハあり、中央十字模り上にもあり。

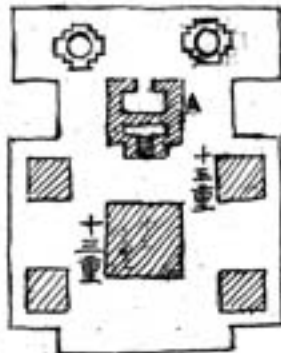


五百羅漢堂

下層



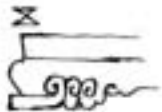
上層



○ウーコンター人の土



塔・塔



乾隆己巳孟冬月建立



○碧雲寺
テラニ



⑤ 五塔寺ノ五塔ノ記

入口のアーチの周囲は仏像の光背と同一の意味を有し、上は天狗あり、其両足(鳥の)を以て左右に一仏の足を踏みたり、仏は片手に宝珠を捧げ、片足に蛇を踏みたり、仏の下に上唇長き獸あり、獐あるべし、其下に翼ある馬あり、其下は獅子あり、其下に象あり、

腰部は普通のモルチングより成り、中帯は羽目を作り、その中に動物(馬)、輪宝、三鈷、碯磨、三叉等を彫出し、羽目の分界には三鈷を用ゐたり

腰部の上は五層に分ち、毎層廂屋根をつけ、その下は羽目を作り、各羽目に仏の坐像を彫出せり、羽目の分界は柱と斗拱とあり、其形左の如し、



下ヨリ
三般マデハ傘

上ニ五塔アリ 四隅ハ十一重ミレテ頂ニ更ニ小
スツーパー冠ス、中央ハ十三重ミレテ上ニ銅ノ
小塔ヲ置ク
全部白大理石ニシテ上ニ朱ヲ塗レリ、

四五兩般ハ雲



コノ模様ニタ異ナリ



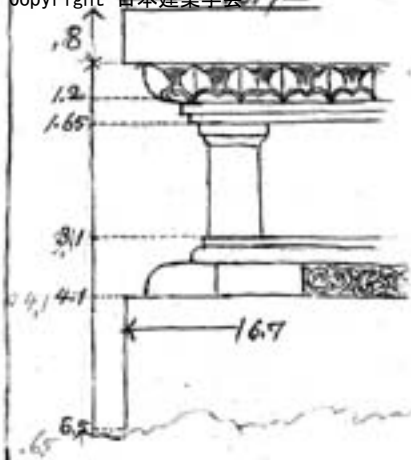


陶器製緑色ノ小屋
ヲ立つ下層ノ方形上
層ノ円形ナリ

乙

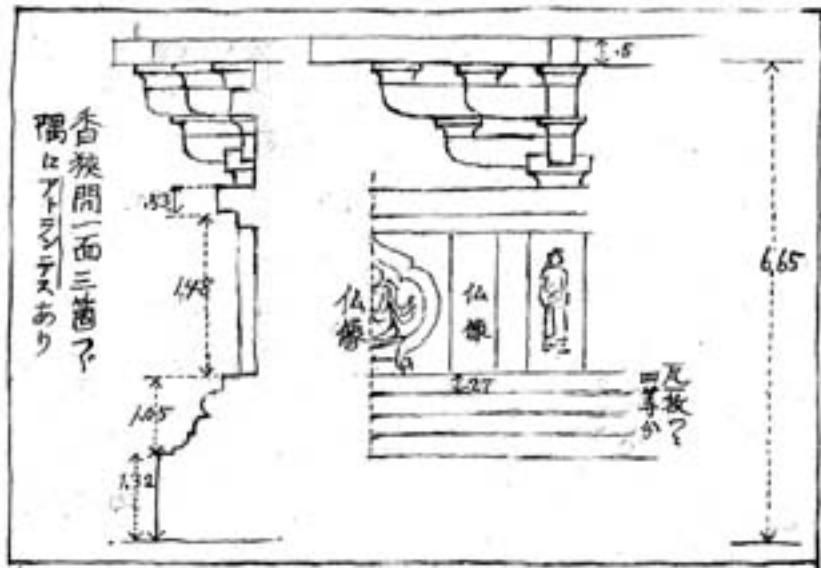
中央ニ大なる塔四隅に小なる塔を置く事
インドアリアン建築に例多し蓋し西藏
を經由して支那に入りたるものなるべし故に
在の門題起る

一 形のみき形式の支那に何時より見ゆや
二 西藏と支那との交通は何時より開けしや
三 インドアリアンと、ラマ教後を区別して
西藏人との交通は何時より開きしや。

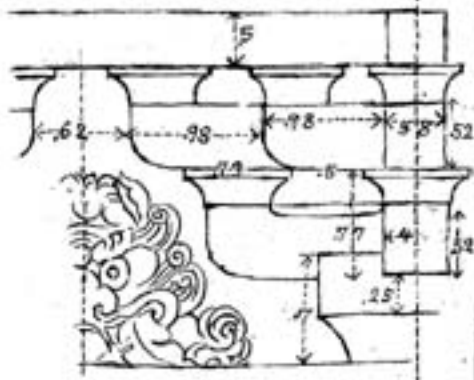
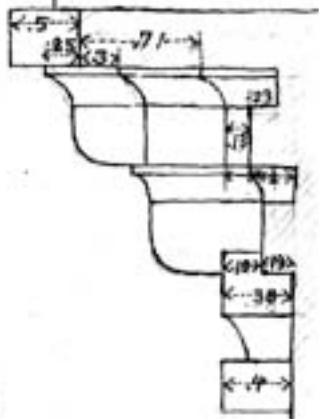


八角十三層舍利塔
甄造

通州ノ塔



成壇ハネル及斗拱



聖木数表

初	22支
二	22支
三	22支
四	22支
五	21支
六	21支
七	21支
八	20支
九	19支
十	19支
十一	19支
十二	18支

合の額に

古列勝教禪林

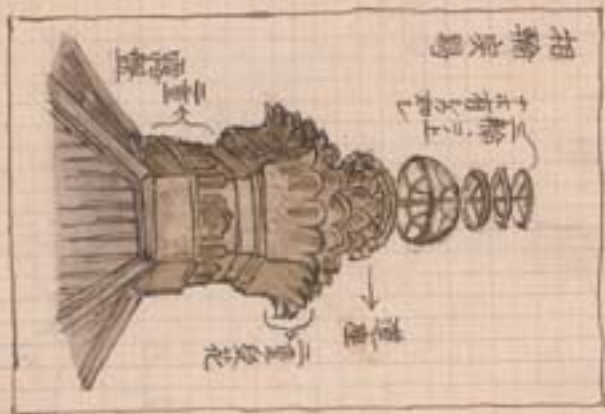
碑に

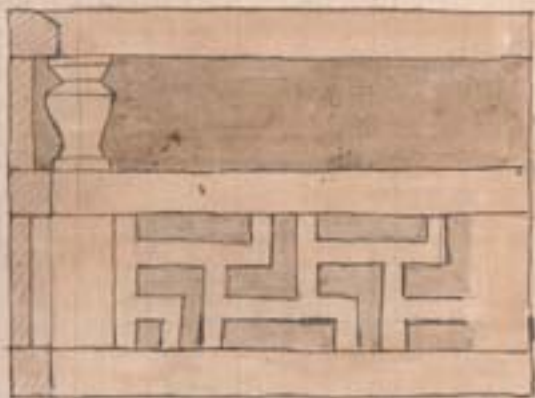
唐貞觀七年癸巳建

燃燈佛舍利塔

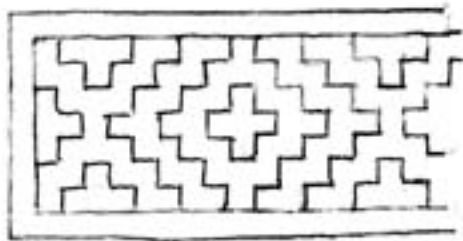
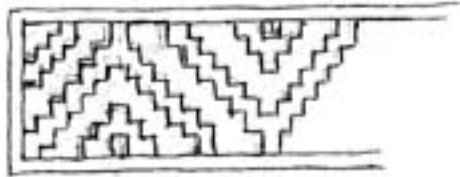
明萬曆三十八年庚戌工部郎中平湖陸某

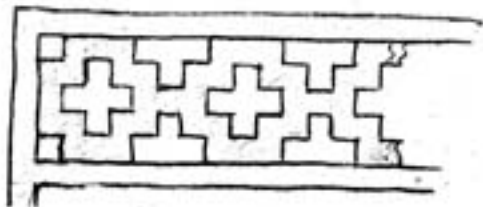
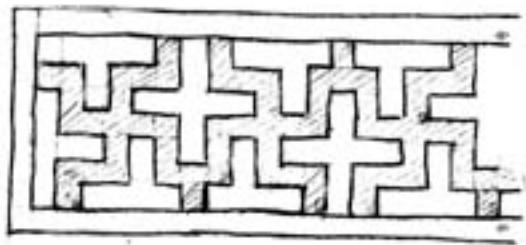
恕識

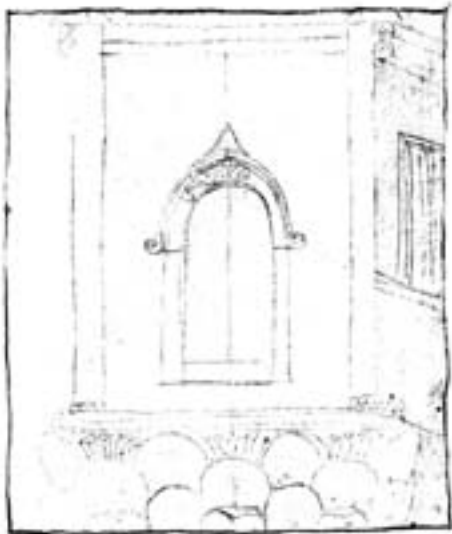




高欄狹間ノ種類







斗拱

初層ハ例ノ如ク隅肘木アレハ土層以上ハ
高欄ノ下斗拱ト全縁ナリ

軒

ニ夕軒地内飛えん角、

九輪

別ニ示す



礪子



通州附近
之家屋





墳墓ノ種類



(七)

ノモルセ連桑ノ(六)



(八)



(五)

ノモルア積勝



(六)

のちあるグンブルモは積勝



(七)

ノモル置装上殿(六)



(一)

ノモルナ卑簡モ尤



(二)

モルア置装ニ頭



(三)

ノモルナ種ノ(四)

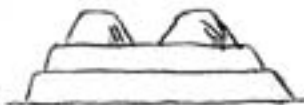


(四)

種別ノ(一)



ノモルア 雄円(上)ノ臺方



ノモノ 實比
層三



ノモルア 臺円

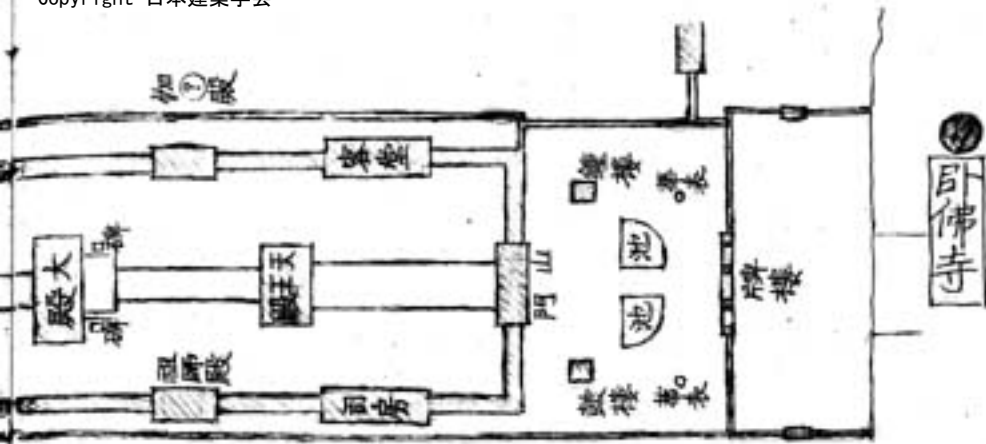
乙



ノモノ 層三デニ單



ノモキ高基円



天王殿 池勸修中央にあり 扁曰同參密藏
 持國天 多聞天 增長天 廣目天



△弥勒殿

弥勒佛の怪相にして前の卓上には八宝を安置せり（日本の布袋あり）日本の七福神は波羅門あり。



←は玉天四



（持）一は摩利清（西藏語イムルスルン）（北）琵琶を弾し（足）右に天人の腹を踏み左道に鬼背を踏みたり。

（増）二は摩利紅（バクチブ）（東）

右手に劔を按し左手を左腿の上に置き右足に龜の背を踏み左足を膝掛け鬼をして之を捧げしむ。

（續）三は摩利受（ミーミザン）（南）

右手に蛇を握り左手に小珠（蛛と称す）拇指示指とはつまみ取り右足に猿面の奴の腹を踏み左足に怪鬼の背を踏みたり。

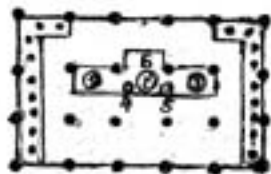
⑤摩利沓(ナムターチスレー)(西)

右手に傘を銘直に樹て、左手を左腿にあて、鼠を掴み、右足に天狗の腹を踏み、左足をあげて青鬼をして之をかきけしむ。

以上八箇ノ鬼ヲ八大怪ト称ス

(東西南北ハ澤拓寺による)
弥勒の後に韋駄天を安置す

△大殿



①釈迦 前に八宝を陣す

②薬師 全上

③金剛 全上(丈珠の化身)

(4)阿難

(5)迦葉

十八阿羅漢

⑥観音

(3)金剛は誤るべし、
宝生如来あるべし

釈迦

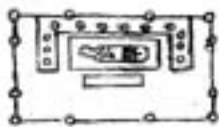
薬師



金剛



右に右祖結跏趺坐、(右足上)螺髪光り
髻あり

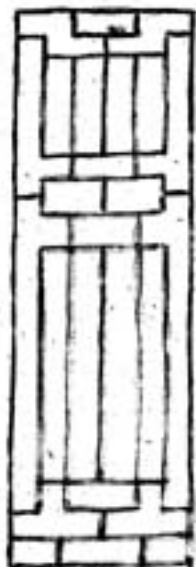


△臥仙殿

△後樓

重層下層釈迦ヲ安置シ、其前ニ文殊菩薩ヲ安置ス上層ニ釈迦ヲ安シ十八羅漢アリ其狀頗ル滑稽ニシテ狂態ヲ演ス。或ハ水馬ヲ騎シモノ巨蟹ノ上ニ躍舞スモノ牛背ニアルモノ蟬(蚪斗形ヲ有ス)ノ上ニ舞踊スルモノ蛟(獨角ニシテ龍身)上ニ立ツモノ等アリ。中尊釈迦ノ左右ハ各一阿泥陀ガ釈迦ヲ負ヘル像ヲ置キ左ニ達磨ノ葦上ニ立ケル像ヲ置ケリ。





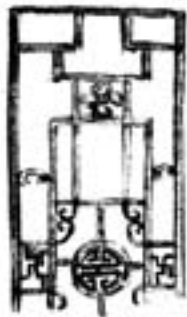
△後閣

重層、上層、釈迦、大悲菩薩アリ、
大悲菩薩は四臂、十二面ナリ

憤怒相



右ノ一間は倉龍アリ、三層、下層方形
二層八角、三層円形形式珍奇ナリ

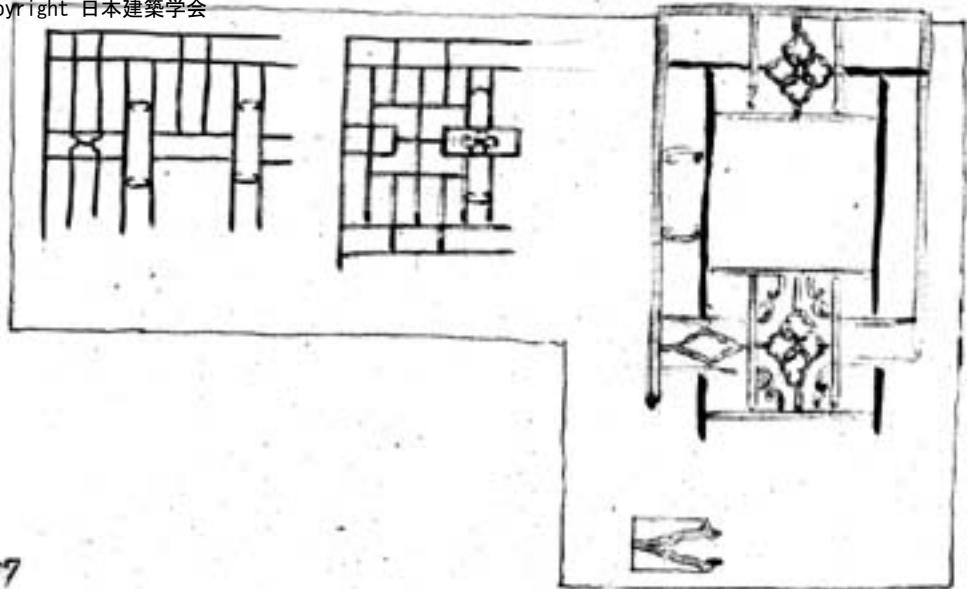


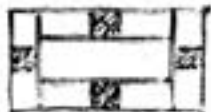
black
white
any colour



△法座







△方丈

玉泉山

玉泉山に四の塔あり左の如し

①八角七重の白石塔、上に「スツ」を置き、
相輪に代ふ小白塔と云ふ

②七重又は三重の陶製表の塔、琉璃塔と云ふ
その形式万壽山後のものと相全じ



五鈴鈴ノ形

五枚アリ

Stupa
の形



琉璃塔ノプラン

正八角
アラズ

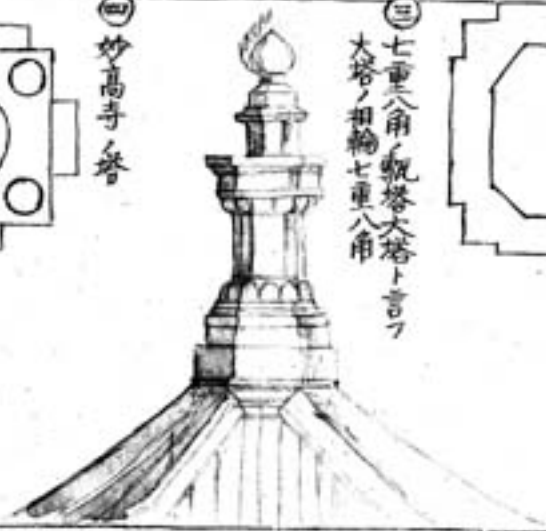
コノ塔ノ前ナル仏殿ノ
屋ノ大棟上ニ八宝ヲ陳列
セリ

③ 七重八角ノ観塔大塔ト云フ
大塔ノ相輪七重八角

④ 妙高寺ノ塔

妙高寺塔

五塔寺、碧雲寺
等ノ塔トノ關係ヲ考
フベシ



乾隆年中建立落雷の爲に
毀損し磚も破壊なり

渠跡壇

妙高寺塔 十三輪





(4) 形ニテ尖キニ筋ノミノモノアリ
 尖頭ノ裝飾ニ種々アリ
 女子ノ鞋ニハ花■模様ナドノ裝飾アリ



1



2



3



4

鞋の種類

乙

○支那宗教(寺本氏終)
現今五派アリ、其那本部大ケキ

法眼宗

臨濟宗

禪

沩仰宗

雲門宗

曹洞宗

北方ハ臨濟多シ

テハハ佛教ノ一種ナレ傳教以外ニ置クヲ宜

シトス

地藏經集師經等ヲ用ユ

今ハ死滅セシモノ中ニテ

華嚴宗

ハ五臺山ハ六分ヲマナリ

天台宗

ハ天台山アレハ禪トナレリ

淨土宗

モ禪ノ内ニ混セリ

○八寶(元來ラマ教ナレドモ禪ニモ混用ス)

法輪あり

① 輻

② 傘

③ 長

④ 螺

法螺

万字あり

⑤ ボンパ

(西藏語) 鐘、灌頂器

⑥ 臭
⑦ 蓋
⑧ 花

不明 (西蔵蒙古ニテハ
臭ヲ食ハス)

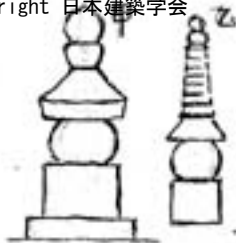
罌粟ノ似タル花ニテ西蔵ノ特産ヲ
スルモノナリ。日本ノ生花ト全シ意
味ナク、眞實進門ニモ用ユ。純白透明
ナル花ナルヲ以テサシグ

禪 五宗ノ本山及重ナル
寺 (本山ナシ)

浙江省 普陀山 上海ヨリ五日
全 天台山

四川省 峨眉山 成都ヨリ舟路四日カデ
山 四川省 五臺山 〔峨眉山〕
〔峨眉山〕 カデヨリ舟路三日
〔峨眉山〕 アト一日ニテ山林也。寺ナリ一日

○ 廬山
○ 廬山 廬山ノ尤モ大ナル山ニテ、尤モ神聖ナル場
所トス。



支那ニ甲ノ如キ五輪ノ
形アルヲナシ、尤モ錫杖
ナシ。佛具ニ乙ノ如キハ
リ、五輪ノ出所歴史
甚ダ詳ナラス

支那ノ佛像

○大黒ハハカヲミシテ夜叉ノ相ヲナシ、種々ナル形相ヲ示ス、極メテ慘刻ノ相アリ。

○四天王ハ日本ト形異ナレモ全テ根源ナリ。

○永安寺塔前堂内ノ恵相ノ像ハ金剛ナリ
ラマ教ノモノナリ

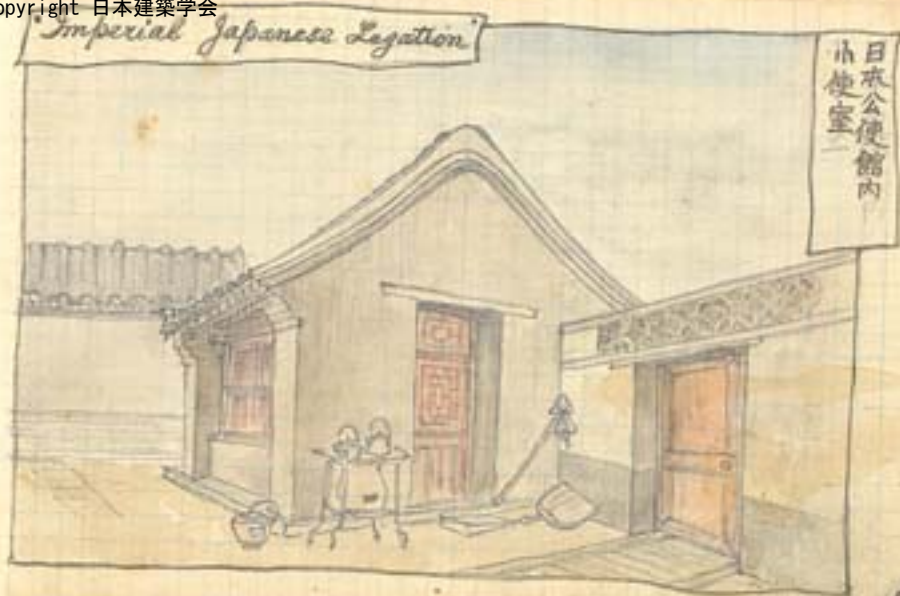
○交接仏ハ娑羅門ヨリ來ル佛母ト誤ス
(男ヲアバシ女ヲアマリト誤スト云フ)
宇宙(皆陰陽ヨリ成ルト云フ意ナルベシ)
紀元前前後樹出生後印度ニ女性崇拝
教盛ナリコレ等ヨリ來リシモノナルベシ、

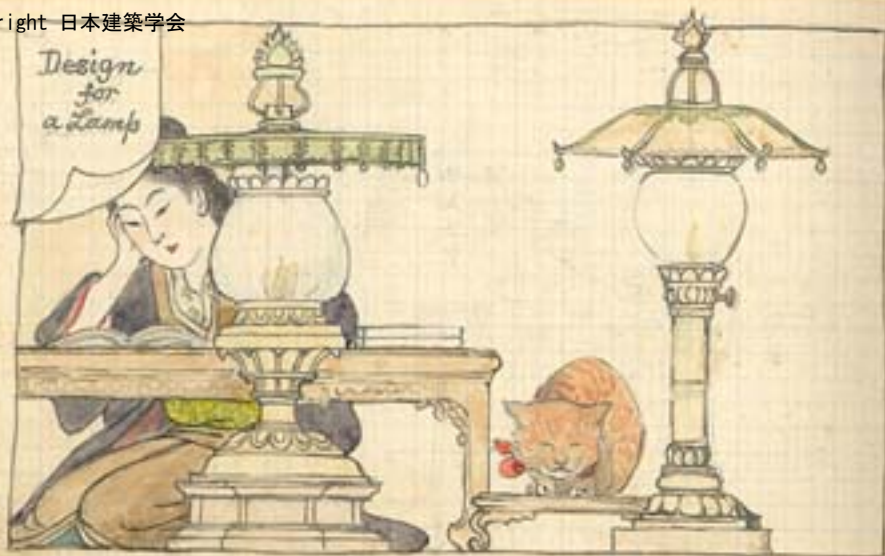


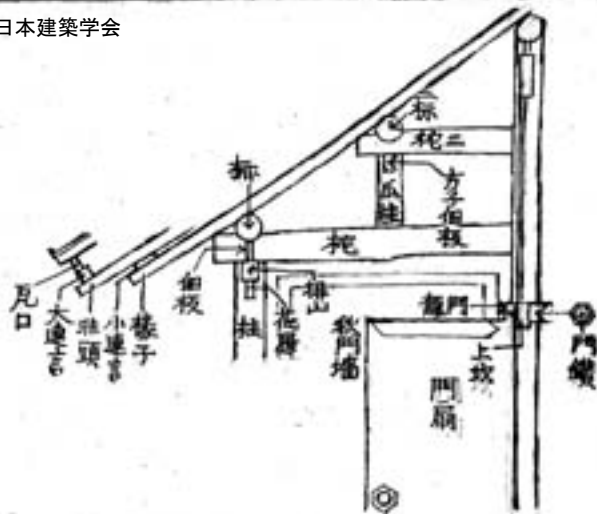
○四川ヨリ陸路重慶ニ行ケバ徐州ニ
高塔アリ

西山







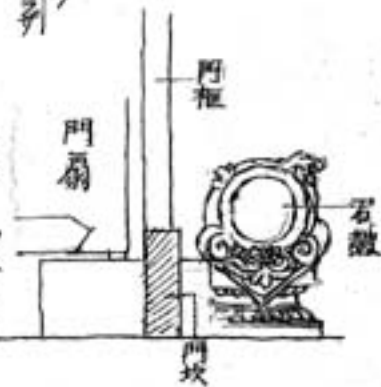


支那建築用語

門扇 トビラ
門簾 カワササ
秋門 塙門 内壁面
柱 ヘシラ
門坎 地フク
土坎 マンサ
石壁 ホーダテ
花壁 カライシキ
花山 輪様持送り
板 頭貫
板 父板
板 桁
板 梁
二板 二重梁
二板 二重桁
瓜柱 ツカ
方子 板ツカ貫



山塙 切妻ノカベ
伯達 破風
様子 タルキ
小連言 木貫
裁頭 ヒシタルキ
大連言 茅葺
瓦口 スイメロ
花山 繫糸キ梁
花板 全
川押 コアシバナ
三叉頭 格子唐戸
格扇



八双
門礎
敷瓦
煉瓦
牡瓦
雌瓦
天井
勾欄

鳥糞
鬼瓦
窓
組物
大斗
卷斗
肘木
格天井

居室ノ名

大門、正門ナリ
 影屏、正門ノ半當リニテ塀
 腰房、正門ノ傍ニテ（倉庫）
 遊廊、オノ内左右ニアリ
 東廂房
 院子、中庭
 中厠
 八字塼、針内前
 影壁、門前ノ障壁
 門房、正門ノ傍ニテ（倉庫）
 三門、第二門
 垂花門、オノ内
 大房、主ナシ建築
 西廂房、大房ノ前左右ニアリ
 後照房、大房ノ後（女室）

棚見車

藍酸麻街上所見





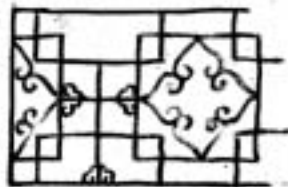
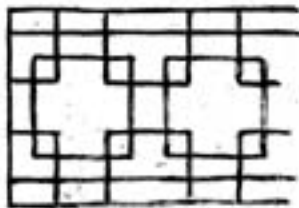
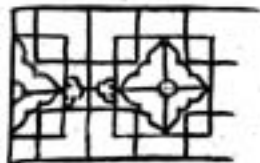
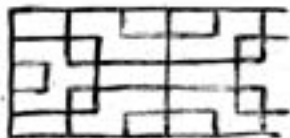
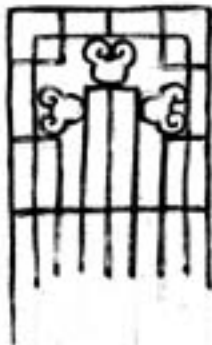
② 大悲寺

① 灵光寺



八大處

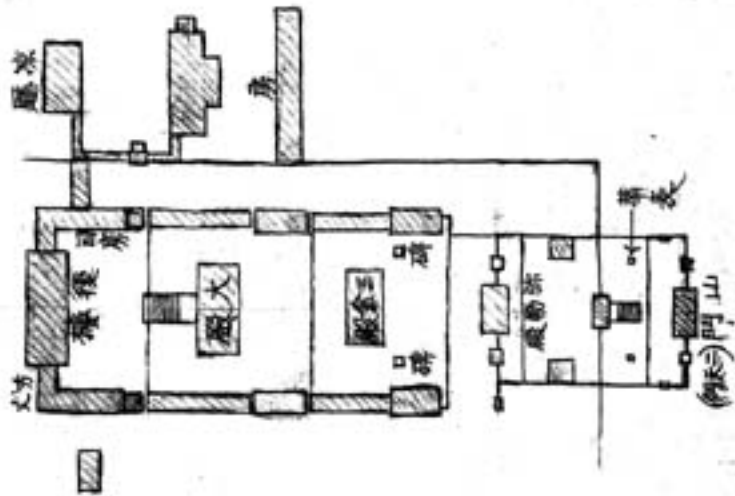
△灵廟寧堵波院ト名クル墓域ニ小ナル墓アリ、四角ニテ周圍ニ欄ヲ繞ラセテク平ナル屋蓋ノ周圍ニ欄ヲ繞ラシ、ソノ上ニハ四隅及中央ニ各スツバヲ置ケリ、五塔寺若クハ碧雲寺ノ塔ト類似ノモノナリ。



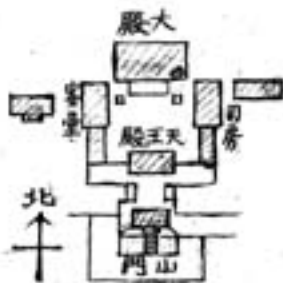
④ 香界寺

康熙十年ノ銘アリ龍頭奇ナリハ









④ 大証果寺 焼亡セリ



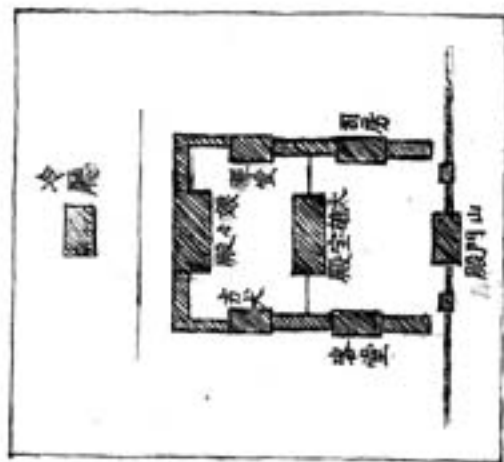
大証殿

⑤ 三山庵



⑦ 何家庵ホケヤノ 破毀ヤセリ

④ 長安寺



○大明万暦ノ鐘アリ、
形状普通、龍頭ハ香鼻寺ノモノト全シ
意匠モトモ違カニ拙ナリ、

○大雄寶殿内



- ② 阿彌陀佛
- ① 釈迦佛
- ③ 接因佛

右ノ像

(1)

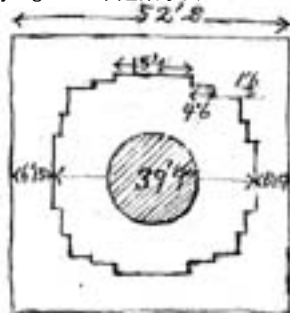


(2)



(3)





西直門外ノ塔

(白塔見と云ふ)

三河橋と云ふ地に
あり

プラン白塔寺によく
似たり。

高さ約八十尺位

壇五十二尺寸方

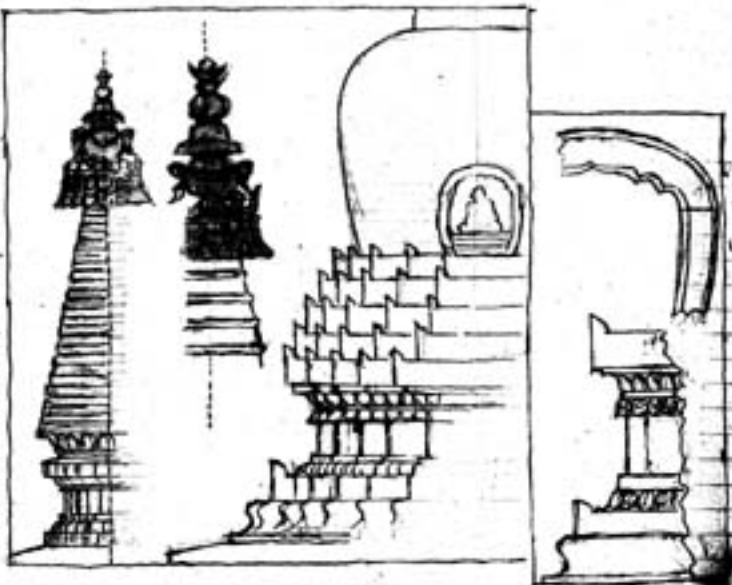
高さ十尺

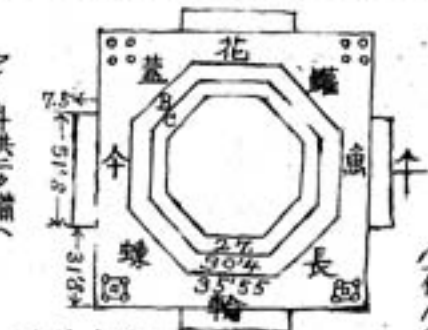
天光寺のものといふの意匠あり



寺内の墓地に二つの奇墓あり

コノ塔階段様のモールディングの末端は鋤の如く
突出を成せるハ印度及後印度諸国に見え不
様式より又全体の意匠は
白塔寺と永安寺の中間
に在るハ尤興味ある事実あり、



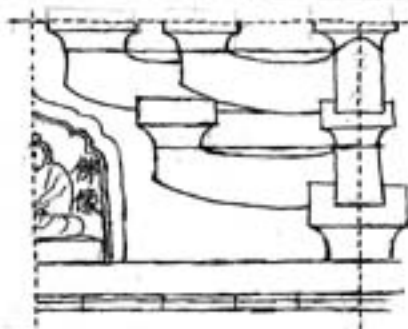


羊棋四具
上ハ子ルセフ
下ハ子ル六ツ

下ハシルは面は八空の
一ツをバシルの界に付
（彼は一ツ道きには仙傳と）
バシルの内には八天獸あり
上ハシルの魁はアトランテス
あり、バシルの内は佛事あり

慈壽寺十三重塔
(在八里庄)

各層飛えんタルキ一本置キニ風鐸アリ、
 「大明万暦丁亥年造」と云ふ碑アリ、
 二層目ヨリ十三層まで斗拱



△相輪 鎖八條



モールデング状色で
 粗野に見え足る

勾欄ト連座

宝篋



横窓ニ軒州コ

コノ連解ノ形奇ナレ知意匠ニアラス他ノ
モノニ比シテ優ルモノニアラス

穹窿右左ノ佛像、柱上ノ龍皆泥土ヲ以テ
作ルヲ天寧寺ノ塔ノ如シ彼ニ比シテ優レリ
ト云フベカラズ

頭貫、飛貫ニ複雑ナル裝飾ヲ施セリ、

上ハパチル下ハパチル上下ナルモールデマ弱ク
シテ陰影ノ結果悪シ、

要スル丸輪ノ如キハ著シク粗野タルヲ
免レズ要スルニ天寧寺ヲ摸シタルモノハ
如キモ、彼レヨリ年代ノ後レタル丈ケ製作
モ劣リタルモノト考ヘラル、大体ニ於テ是
全ク全一ノ意匠ニ成ルモノトス、

基壇ノ四隅ニ小堂アリテ石碑ヲ建テタルモ今ヤ破壊セリ、
構造ヲ觀察スルニ内部ニ鉄條ヲ多ク用
ナルカ如シ、

上ハ子ルノ下ニ蓮蓮アリ

附

本

○慈慧寺

△蜘蛛碑

大ニ我邦ニ於ケル形式に似たり



本殿毘盧宝殿

接引佛(毛彫り)

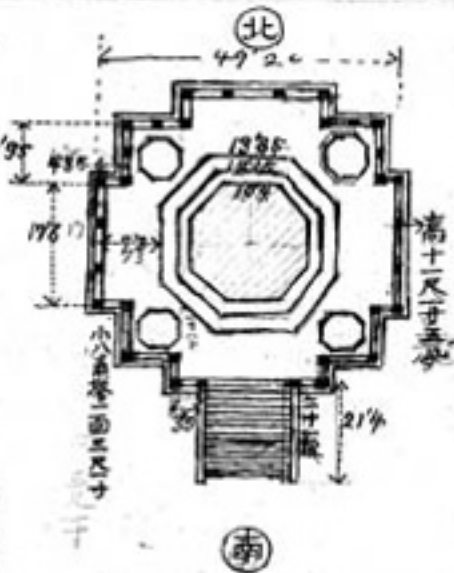
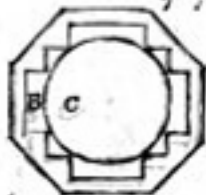


連髮髯↑

連髮髯とは頭髪より髯再海下清まで
續きたるヒゲあり左の如くは。



コノ塔例ノ如シ
五段ノ塔ノ
如キ程ノ高アリ



△パン屋シラマ塔

西黄寺

高十二尺二寸五分

17'6
10'9.5
10'9.5
4'8.5
4'8.5
47'2.0

相輪



Aナル八角ノ基壇ヨリBナル層ヲ經テCナル
八角ノ基壇ヨリBナル層ヲ經テCナル塔身
トナル塔身ハ甚タトク、レクヒテ豐滿ノ相
ナレCノ上ハDナル傾斜セル面アリ其上ミ多
少ノカレビシグ的手法アレドモ何處ヨリモ
見ヨリフナレ、

Dノ上ミEナル饅頭形アリ其上GFノ二
重ノ層アリコノ層Bノ層ト全レフナリ、
Eノ部細キミ過クルヲ見ルベシ、

Gノ上ミ蓮坐アリ十三輪ヲ冠ス、

ノ上ミ饅頭金ノ水煙樣ノモノ、宝珠樣ノモノアリ
又左右二面ミ一種ノ饅頭金ノ裝飾下ガリ居レリ
全体ノフボーション面自カラス、手法乾固ミシ
テ古代ノ如キ円満ノ相ナレ、意匠尤モ拙ト云
フノ外ナシ、

相輪

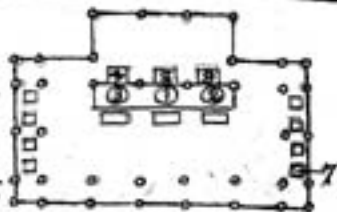


Aナル八角ノ基壇ヨリBナル層ヲ經テCナル
八角ノ基壇ヨリBナル層ヲ經テCナル塔身
トナル塔身ハ甚タトク、レクヒテ豐滿ノ相
ナレCノ上ハDナル傾斜セル面アリ其上ミ多
少ノカレビシグ的手法アレドモ何處ヨリモ
見ヨリフナレ、

Dノ上ミEナル饅頭形アリ其上GFノ二
重ノ層アリコノ層Bノ層ト全レフナリ、
Eノ部細キミ過クルヲ見ルベシ、

Gノ上ミ蓮坐アリ十三輪ヲ冠ス、

ノ上ミ饅頭金ノ水煙樣ノモノ、宝珠樣ノモノアリ
又左右二面ミ一種ノ饅頭金ノ裝飾下ガリ居レリ
全体ノフボーション面自カラス、手法乾固ミシ
テ古代ノ如キ円満ノ相ナレ、意匠尤モ拙ト云
フノ外ナシ、



- ① 釈迦
 - ② 金剛
 - ③ 薬師
 - ④ 以上三大師
 - ⑤ 文珠(青獅)
 - ⑥ 金上普賢(赤獅)
 - ⑦ 以上三菩薩
 - ⑧ 八大文殊菩薩
- 印相臥佛寺
大殿内は均し

重層入母屋

西蔵語チユンラー。
チユンはウシヌの權
化。ラー鵝鳥の名を
り。三男を
廻り方物は
思害與
ふるの
意あり。

ペター
蒙古
ハシマ
蒙古



ハシマ
が合掌
せるやあ
り。又足
をつかま
て蛇尾に
離れたる
もあり。

光背を懸橋と云ふ

三大大佛、光背に於ける Garuda.
(大鵬又金翅鳥)

東黃寺伽藍圖

東黃寺



官士菩薩即觀音菩薩
印相
結跏趺座

龍王殿
地藏殿
觀音殿

東黄寺三大師殿
重層四注屋脊、中央ニスツ、いを置く。



黒寺寶福院

大殿重層、上層入母屋、*Chantory*
ヨリ光線ヲ取ル工夫アリ、尤モ新奇ナリ。
妻飾面白シ
三宝殿、上層入母屋
各宇順治年間建立

庭和宮

庭和宮ハ庭師帝能君タリト云ノ宮御ナリト云其
 マテ教ノ寺トナシタルモノト云ハ、然然タル佛寺ト云モ
 シ、即チ今ノ庭和宮ト名クル一字ハ古ヘノ宮版ノマ、
 ニシテ、其格ノ諸殿及ヒ之ノ殿、鐘、面、橋、如キハ
 後世ノ附加ナリト云フ。

西元一三〇九年、教ノ殿堂ハ其処置モ形
 式モ庭和宮ノ如キト云フ。其形式ハ屋廿四事ニシ
 テ、所々ニ空ヲ置、重層トナシ、下ニハ柱全ナリ上ヲ
 佛堂トス、タタラハ下ニテ少し廣カリモ四角形ノ
 モノナリト云フ。

左ニハ善寺、里ノ寺等ノフシハ、即チ支那化セル
 ラマ、教ノ監ミシテ西元一三〇九年、其ナリ、庭和宮ハ
 佛ノ宮殿ヲ云フ、支那化セルヲ、其監トナセルモ
 ノナリト云フベシ、コレ庭和宮ノナリカ、其ナリト云
 ト、其ナリト云フナリ。

○庭和門 即チ天王殿、其ハ、四天王及チ、天アリ
 ○庭和宮即チ大殿 三尊、三尊ヲ云フ

○永佑殿即チ 三尊、三尊ヲ云フ

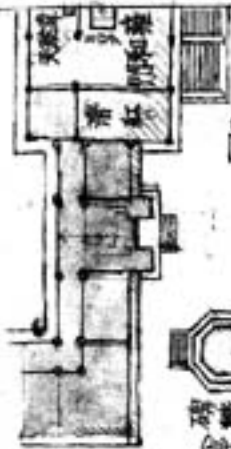
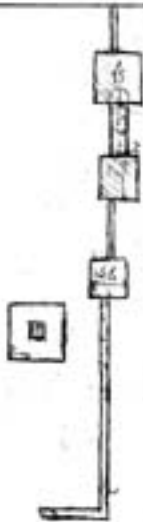
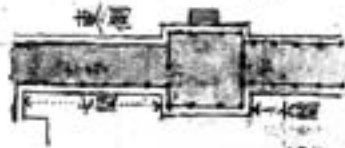
コノ寺ハ日本ノ奈良朝時代ノ伽藍ノ如ク、今日ニテ
 モ宗教大衆ノ如ク觀アリ



○雍和宮平面定則

中央線

照素門



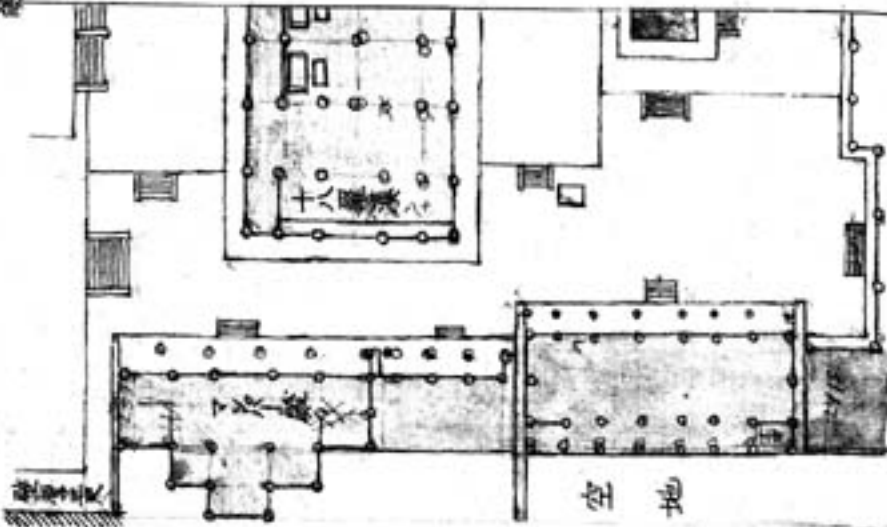
中央線

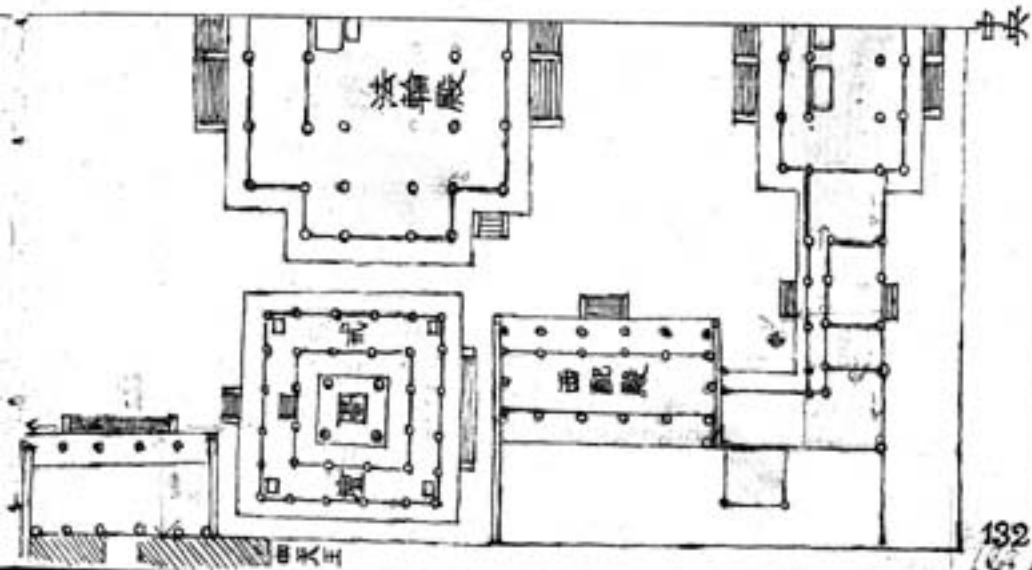
131

建築材料

十八畳

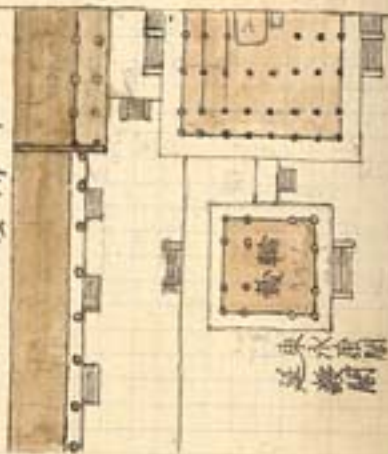
空地







緩急
本線
場



東水庫
延緩
場

△戒壇堂

重〇ミシテクリーアストリーより光を採る、

△西配殿

本尊釈迦



衣紋奇ナリ

乙

テマ教ニハ俗眼ヨリ見テ淫猥、残酷ナルナル相多
シ、又極端ナル怪相異相アラズ蓋シ土民ノ極メ
テ未開、幼稚ナルヲ証明スヘキナリ、

仏像ノ種類ノ多キヲ突ニ驚クベシ、多クハ幽晦
ミシテ不可解、

法会ニハ大なる喇叭、銅鑼、鼓、等ヲ用テ、現
今北京ニ行ハル、婚葬ノ式儀モ多クハテマ的
ノ行儀ヲ有スルカ如シ、

要スルニ今日ノ清国ノ文物ヲ解スル上、テマ
ヲマ教ヲ研究スルハ尤モ必要ニシテ且ツ尤モ
趣味に富めるものなりとする

乙

雲線
地上藍下線

薩和宮に於ける十二因縁の圖



周圍には十二處の圖



赤魅貪
豚蛇鶴

日本文	西蔵語
一 Nigga-ニガ	Chig-チグ
二 hair-ハル	Nih-ニ
三 Kolappa-コロパ	Lung-ルン
四 Frob-フロブ	Shih-シ
五 Taba-タバ	Ugga-ウガ
六 Jwerga-ジュワガ	Chuck-チュク
七 Talla-タラ	Fung-フン
八 Nahma-ナマ	Chatt-チャット
九 Jeso-ジェソ	Cuh-ク
十 Allaba-アラバ	Ju-ジュ
	日本語音に近シ

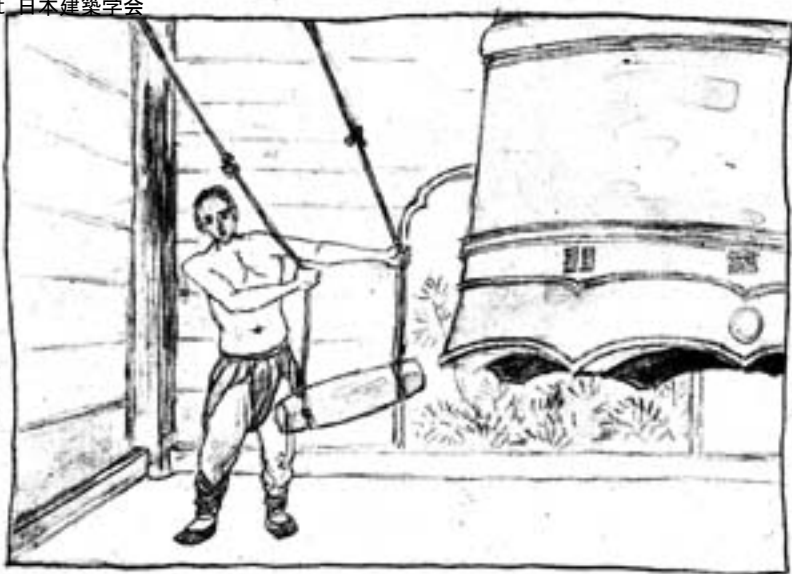
△ Garuda

ウイシ又は牛ニモナル種々ノ形ヲ現ス鳥モ其一ナリ、
ヲ仏王ヤイナ教ヲ尊信セラル蛇如キ毒虫ヲ喰ヒ、
シバが戦ふときこの鳥を先きに用ゐたり

△喇嘛

ハ元來純正ナル大乘教ナリ、後チルル行ハタル
女神崇拝教ヲ入レ、又西藏固有ノ宗教(妖術、
如キモノ)ヲ加味シテ全ク墮落セリ、日本ノ異言
ニ似タ法ヲ修スルモ元來禪ト全シ性質ナリ。

鐘ノ撞キ様日本ト大異ナルヲ見ヨ



麻和宮ノ鐘

大明成化二十年九月吉日製ノ銘アリ



○清国度量衡

小尺五尺の一步トシ三百六十歩の一里とす、

$$\frac{360}{1800} = 1$$

$$\frac{611800}{601300} = 5$$

故に一里は 日本の五町に
當る

清尺二様あり、大尺は裁縫に用ひ小尺は

木匠尺あり、大尺は小尺より五分長と

小尺八尺を一仞とあすと云ふを尋ずる全シ

一步は日本の所謂二歩あり、二尺五寸を一足

とす、二足を一步とす、



八里庄街上所見

馬鞍山ノ北

羅喉嶺上ヨリ
西方ノ連山ヲ望ム



○潭柘山岫雲寺途上ノ所見

岫雲寺(潭柘寺)(律宗)

△觀音殿(一)(威豊)

遼金ノ遺物ト称スルハ爾來二回ノ
大修理ヲ加ヘ古式ヲ存セバ現在ノ
モノ威豊年間ノ修理ナリ



内部ノ裝飾ハ梁ノ色彩及檼樑ハ中和殿ノ
保和殿ト全ク全意味ナリハ只ニヨリモ粗大
ノ、鵲ノ工絶ト稱スレバ矢張り普通通明
代清代ノモノ全シ

仏像見ルニ足ラズ十八羅漢ノ画像アリ佳
ナリニ嘉靖年中鑄造ノ鐘アリ、
斗拱奇チケレドモ見ルベシ

知樞ナリ、妻ハ煉瓦ニ平張リウツタル斗ニ
入母屋造ナリ



△文殊殿(觀音殿ノ東ニアリ)(2)

本尊并文殊菩薩像モ古ナリ

(コリ形式の變態が尤甚多し)



△祖堂(觀音殿)の西、歴代ノ住職ノ位牌

ヲ安置ス(3)

△龍王殿(祖堂ノ西ニアリ、龍王ヲ祭ル) (4)

△大悲殿(5) 大悲菩薩ヲ祭ル(6) (祭ル)



大悲
菩薩

西院中



△孔雀殿(孔雀傳ノ安置ス) (6)

大悲堂

中庭ノ隅ニあり、西方面
ニあり、孔雀ノ上ニ安置セリ

△藥師堂(7)

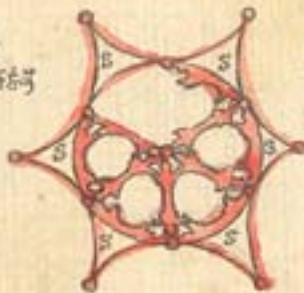
△中院及東院



△大悲壇伽藍

- ① 番花門
- ② 大悲殿
- ③ 東房(靈障堂)
- ④ 西房
- ⑤ 樂連堂
- ⑥ 給孤堂

8の所
空際を何



天王殿扉



145

△西院伽藍



① 西院伽藍

△戒壇 ②

三間四方、母屋一間、三成石壇ヲ備フ形式粗野ニ
ミテ雍和宮ニ及ハサルヲ遠シ、單層、切妻、普通
ノ瓦葺ミテ棟ナシ

△釋尊壇 ⑤

下層八角上層円形、漆金内頂

△南殿 ⑧

五間二面、釈迦ヲ祭ル

△後單房 ①

△東客廳 ③

△西客廳 ④

△東配房 ⑥

△西配房 ⑦

△廊房 ②

○中院伽藍

△三聖殿、十二因縁ノ図アリ、雍和宮ノヨリ察ス
本尊阿彌陀佛、宣徳ノ鐘アリ

前堂後堂ヨリ成ル前後ニ并行ミ棟ヲ取リタリ
前ヲ齋殿ト云ヒ後ヲ三聖殿ト云フ

△大雄寶殿（康熙再建）

内外障、紫キ梁、下面ニ幾何學的模様アリ、
中央ニ其意匠ヲ異ニス、手法色彩共ニ見ルニ
足ルベキモノアリ

内障、大梁ニハ中和殿、保和殿ニ類似ノ手法アリ
各所ノ模様凡テ多少見ルベキモノアリ

カヘルマタも亦た奇と云ふは足る。
逆連より成ヒリ



五間四面、重層、四阿、黄琉璃瓦を覆ふ。
正吻甚々大ナリ、軒面層共ニ手先。

△天王殿

三間三面

弥勒佛、四天王例、如シテ、四天他多比シテ上
出来ナリ、年代モ古キカ如シ
内部ノ裝飾法ハ大殿ニ均シ、幾何學ノモノハ中
和保和両殿ニ似タルモノ等ナリ。



楊殿壇内

○東院伽藍

△延清閣

△大庫神殿

△方丈

△舍利塔(百塔にて例の西藏式あり)あり

△四通殿(地藏殿等あり)

其外堂宇猶ホ多シ

別に離れて関帝廟ノ一廊あり

岫雲寺伽藍ハ配置ノ完備セル点に於テ殆ント無比ナルベシ、然レモ箇々建築の價値に去マテ道ふは足らず、古式を存するもの皆無あり、明代ノモノは少シクアルカ如シ

戒壇ハ春力冬に授戒を行ふ時に用ゐるなり、楞嚴

楞嚴懺ヲ拜する所あり

經藏ハ別に存セス

東計ト云フ字ヲ用キスレテ祭房ト唱ヘ居レリ、即チ俗人の中廟ナリ。

○安樂延寿堂

河原盧品(1)

中尊毘盧佛 (1)

左薬師佛

右勢至(2)

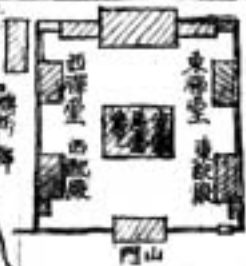
山門の中に旛壇佛アリ
延壽堂ノ中ニ釈迦佛アリ

院西

殿南



鈴と三鈷とを持せり



○墳墓

澤柘寺は墳墓に無数の種類あり、を記すべからず、無層のものより七重のもの、大に至る、其の形とあるもの二三を挙ぐれば

(一) 單層のもの

(甲) 円形ノモノ



(乙) 多角形ノモノ



(丙) 方形ノモノ

乙ト會式ナリ、但形ノ方ナルミ

(一) 西藏式宝塔の類

普通の形式あり

(三) 層塔

(甲) *skimpole case*



多くは八角あり

(乙) *Complex case*

普通の形式あり、但し無数のギョウロ
の变化あり、丸輪に奇あるが、あり。例ま



以上多々、観ヲ以テ送ル(五)ノ(甲)ノ場合ニハ
石造ナリ。



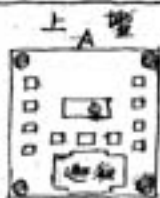
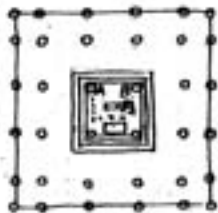
戒壇寺

(釋教中臨濟宗)

△戒壇堂(選佛場)

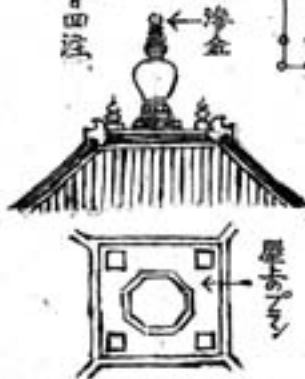
選佛場

A Bの柱の上より来迎ノ
觀音蓮華堂をさしガ
片足を立て片足を跪
きたる(雲に乗る)像
あり



重層ノ上層四注

淨金



△戒壇ノ前ニ彌勒殿アリ、中央ニ彌勒佛アリ、

東ニ南海觀世音菩薩

西ニ地藏教主地藏王菩薩アリ

南ニ菩薩極メテ猛惡ニシテ四天王ノ如キ

爪采アリ、上半身裡ニシテ地藏王ハ三面六臂

アリ

頭上ニ三股同角ノ鬼アリ
 夫手ニ足ヲ蛇纏ヒ宝冠ニ鬚髯アリ、頭ニモ
 之ヲカケタリ、腰ニハ生首ヲウケギテカケ、蛇ヲ帶
 ニス持チ者ハ

右ノ上 火輪

右ノ中 降魔杵

○右ノ下 鬚髯、半切シタ

左ノ上 火輪

左ノ中

○左ノ下

觀菩薩ノ方ハ三面八臂

頭上ニ三眼独角ノ鬼アリ

裝束凡ヲ地藏王菩薩ニ全シ、其持チモノハ

左ノ上 月

右ノ二 五鈴

右ノ三 降魔杵

○右ノ四 劍

左ノ上 日

左ノ二 宝瓶

左ノ三 五鈴鈴

○左ノ四 頭髮ヲマシ頭ノ半分

○印ハ自然ノ手ナリ

兩方共ニ惡鬼ヲ踏ミタルガ觀音ノ方ハ
 右足ヲアゲ地藏王ノ方ハ左足ヲアゲタリ、



祖師塔婆の隅に於ける奇異なる手法



△千佛閣

三層の高閣ニシテ上層四注、

△天王殿三間二面

魔利海は鼠代りに舍利塔を持てり

魔利清は琵琶を彈せしめて右の手を下

に置き、天人之を抱く

其他大同少異あり。

△大雄宝殿五間三面

三尊の上の格井井は八角より丸く折り上げて
中心に龍あり

三尊の印相他に異あり

阿闍
釋迦
阿彌陀

喃末羅果

②



①



③



單層切妻、建築として見るべきあり

△千佛閣

下層を齋堂とし上層を千仏閣とす、閣上に接引佛を安置す。



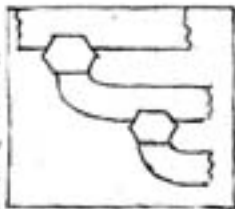
左右手同じ



建築粗野あり、柱の形が鼓樓と相同しき意匠あり、添へ柱をつけたり。



又一種ノ異様の料拱あり
然れ共美しき形式にハあらず



伽藍の配置例は依て例の如く奇あし

ノ

○潭柘寺山下伽藍

△大雄宝殿

例の如く三尊并坐す

(2)

鎮師

(1)

釈迦

(3)

あみだ

鎮師の印相他に異あれり



曉末羅果

伽藍配置例、如く別に奇ありし

② 日本ノ墳墓ノ起原

(一) 無帽塔は西藏塔の九輪をとりたる者



西藏塔

無帽塔

(二) 宝塔は西藏塔に屋根を加へたるもの



宝塔

(三) 多宝塔ハ二重の屋根を加へたる者



多宝塔

(四) 宝篋印塔ハ西藏塔ノ殊部ヲ去リ、殊部ノ
基壇ト全休ノ基壇ヲ部分ヲ發達セシメシモノ也



(參考) 三河橋ノ自塔



(五) 五輪ハ西藏塔ノ起原ト見ルベシ
上ノ理論ヨリミテ凡テノ日本マ於ケル基壇ノ
系統ヲ説明スベシ、

(六) 層塔ハ多層層塔ノ小ナルモノハ多層層塔ハ
西藏塔ノ九輪ノ發達ニシタルモノ也

(參考) 北京宮城中正殿内ノ塔
(下部ノ形不明)





雍和宮

外陣繁虹梁

藍ウシゲシ
輪廊白
地朱

田記
8200

藤ヲ變化セシモノ
ニテ比較的成功ナリ



全下面

色彩法上全シ



光行頭書簡の
彩色同上



香炉、一部



法輪殿内香炉、一部





法輪殿本尊釈迦牟尼佛
最端麗ナル相觀ナリ

ラザリ地図

西蔵人ノ画キシモノニテ凡ソ六十年位以前
ノモノナシ、其中ニ寺院建築アリ、

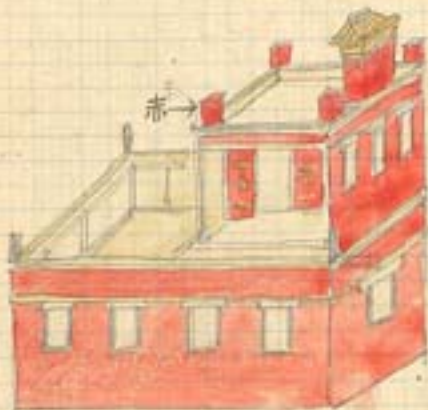
円形ノ輪廊ノ四方門(オ二図)アリ中ニ壇アリテ
其上ニ佛殿アリ、円堂ノ上ニ百八ノスツシハアリ、
堂ノ傍ニ四隅ニ四ツノ塔アリ(オ三図)房ノ形
尤モ奇異ニテニ階ノ上ニ住フベク装置セリ(オ三図)

オ二図(正門)



オ三図(左ノ上)





才三圖(右ノ下)



才三圖(左ノ下)

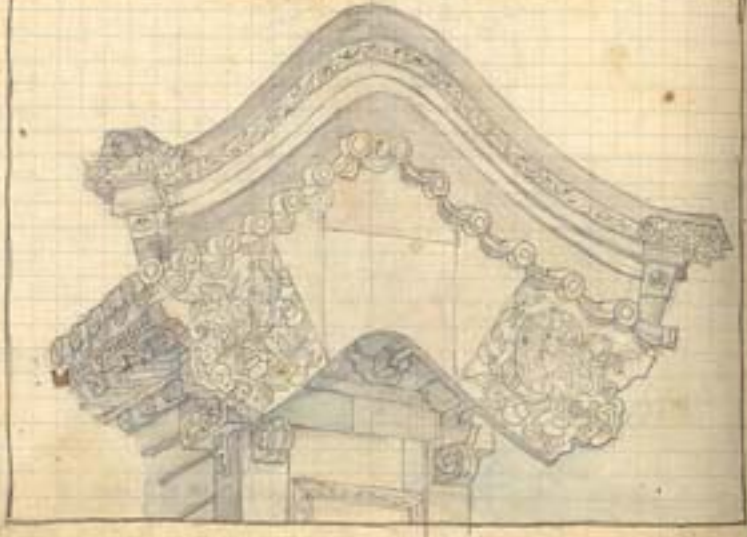
地藏寺院配図（但馬口考案）



西藏の口牌ミヨシハ西藏ノ起原ハ猿ナリハ或ルハ人ノ
 美ノ来リ猿ト接シテ子ヲ生ムコシ西藏ノ祖ナリト云フ西
 藏カ多支ノ婦ノ基ナリハ後國王アリ唐ノ太宗ノ女ヲ
 娶ル又チハル王ノ女ヲ娶ルニ女共ミ子ナリト云フハ
 ロノ主ノ續ル事虚ナリシヲ追ヒテ改悞セシメ終ニ尤
 モ熱心ナル仏教信者ト受セシタリハ國人ニ女ノ効ヲ
 慕ヒ之ヲ神ノ化身ナリトシ女神崇拝ノ宗教ニ
 符會シ之ヲ祭ル、タチヤント云フハコト也

警務堂友会

影屏ノ裏ニ唐破風ト彫刻ナルモノ如シ
モヲ円破風ト名ケテ大破風ト区別スベシ、
円破風ノ場合ハ棟ヲ設ケズ





警務學堂官舎才二門軒ノ隅

(軒飾ノ手法ヲ見ユ)

地桑木ノ木口



コレ平面ヲ凸凹アルカ如ク
目ヤミヨリ好意匠ニアラズ



飛毛ノ桑木ノ木口(常ニ地タルカヨリ本ナリ)



喜の字

省畧ニタル喜ノ字

丸桑木ノ木口(並日通左ノ如シ)

上等ナル程ウケン
ノ度数多シ



皆既太シテ日本ノ如キ奥去リナドヲ用ヒズ、
支那ハ木材トモシキ爲メ丸ナリ用ユ日本ニテモ之
做ラハ愚モ亦タ甚シクダスヤ

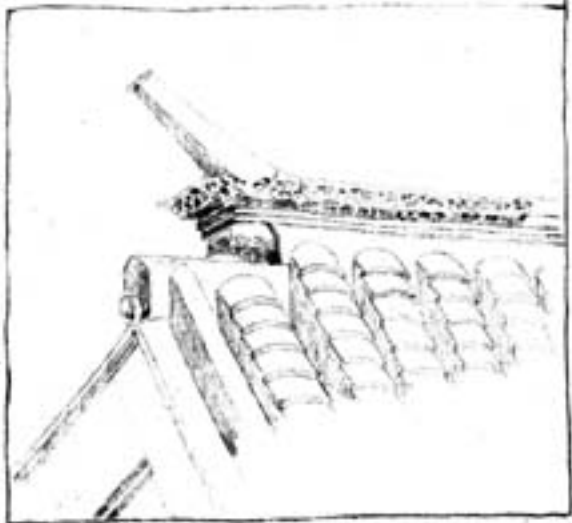
福田基隆之像



△尖破風ノ例

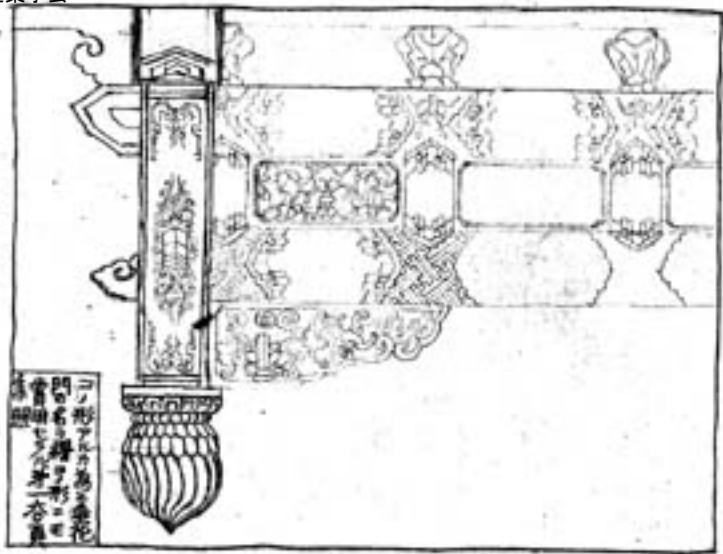
(但し毎屋ニモ切妻ニモアリ)

(附鳥食)



コレハ下等ノ建築ニ用ヤル本瓦古耳ニアラス
着シ棟ニ獸形ヲ置ク片ハ手法一變シ、破風ニカケ
瓦ヲ用ヒ、下リ棟ヲ裝置ス、宮殿建築ハ即
チ之ナリ

猫花門前面



支那庭園ハ見盛ニ類スルモノアリ迂曲セル
堀ヲサミラレキ窓ノ形ナドコノ類ナリ



支那庭園
見盛ニ類
スルモノ
アリ迂曲
セル堀
ヲサミラ
レキ窓ノ
形ナド
コノ類
ナリ

窓(庭園に於て)



并行線ナレ最近ノ所ニ
コノ種ノ窓ノ特色左ノ如シ、
一点ニ四ツノ派聚マラザルヲ、

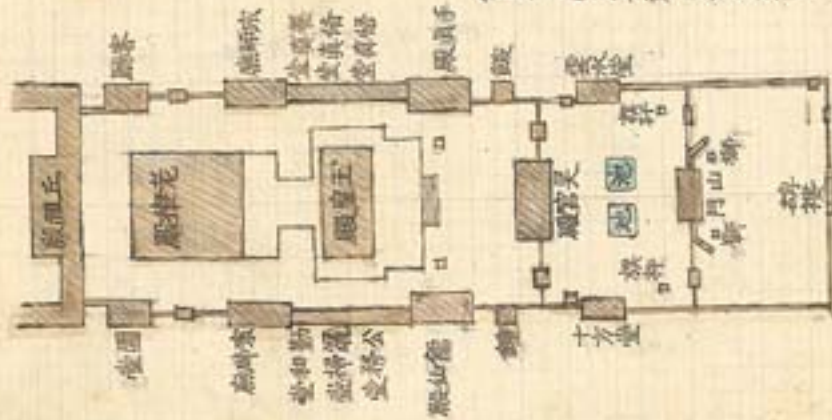


- (一) 如何ナル不規則ノ形ヲモ充填スルヲ、
- (二) 必ず中央ニ五角を入ルヲ、五角ノ尖兩ハ上ニ向フ、
- (三) 水平線鉛直線ヲ用キザルヲ、
- (四) 無規則ナル線ヲ以テ殆ント等々ノ面積ニ区割スル、

破風の拜けの形



コニ揚メル所ハ中央ノ一區ノミ
コノ東西各一區アリ、澤祐寺ノ
如藍ト頗ル其趣ヲ全シセリ



白雲觀(道教の本山)

△灵官殿
五間二面



中央王灵官

①趙灵官 ②溫灵官

③馬灵官 ④劉灵官

四灵官は恰も四天王ノ如ク皆劍ヲ持チ多リ
謂フニ後世仏教ニ附会シテ四天王に擬セシ
モノナルベシ



中央

王灵官

右

左

斬妖去邪
之意

Aノ處降龍ノ形像ヲ造リ
Bノ處伏虎ノ形像ヲ造リ



降龍ノ図

青龍ミシテ雲ヲ配セリ、

鬼曰ク

ドモ龍眼肉ト違ワテ龍尾肉ヘアシマリ
感心コナイ

龍曰クマツいあらば喰フて世間はぬ、

伏虎ノ図

白虎ナリ

鬼曰ク

(白虎デハ已レノフンド到ニモチ
ラサキ、見セ物ニデモレデヤロ)

(評曰、虎ノ尾ヲ踏ムト云テ誘ハアリ
虎ノ尾ヲヒラハ崩新ナリ、何々)



△玉皇殿

本殿ナリ中央ニ七神、左右ニ三神合セテ
三十九神アリ、ミナ玉皇ト称シ居レリ、

△老律堂

七種ヲ祭ル

中央 丘祖

左一、孫祖

右一、馬祖

左二、玉祖

右二、諱祖

左三、郝祖

右三、劉祖

堂内ノ裝置仏堂ニト均シ、像前ニ卓アリ
卓上五具（足ヲ駢列シ天井ヨリ燈籠、幡等
ヲ懸ケタリ、

鉦、出鼓、鑼、鈴等ヲ用ヤテ誦經ス、

（鑼ハ日本ノ銅鉢ナリ、當鉦ハ左ノ如キモノナリ）



三叉鈴ハ樞メテ
單斷ナリ



三鈴ヲ形クナ四サズ

道士誦經の姿（誦經）

と唱ふるあり。



コノ髻ハ漢朝ノ遺風ナリト云フ



冠子(帽子)上ニ出ツルリ
(混元髻)



△四御殿

中央ノ二位 東ヲ天皇大帝 西ヲ地尊
大帝ト云フ、前ニ八宝ヲ陳列スルハ、
又末奥、大鼓、鐘以下ノ具ヲ用ユ、



三清閣上の三神

○中央を元始天尊と云ふ

陰陽魚

○西を道德天尊と云ふ

(即ち老子あり)

○無名雁

(即ち孝子あり)

東吳宝天尊あり

○如意上

(東靈宝天尊あり)

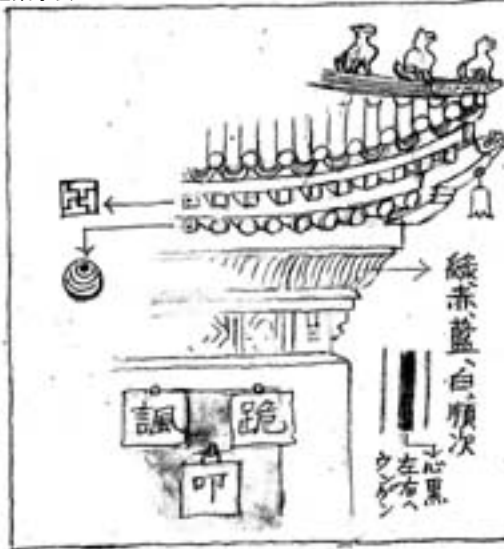
和創在元朝太祖

重修在明朝正統三年

本朝乾隆五十五年又重修

コノ觀ノ外ニ
 玉清觀、呂祖祠、呂公堂、円眞觀
 關帝廟、呂祖宮、眞武廟、円通觀
 ナドアリ

△山門の軒太奇なり
 斗拱を用みず



要スルニ道観ノ建築配置ハ仏刹ト異ナル所ナシ
 建築諸々と就テ見ルモ仏刹ト異ナル所ナシ
 況ニ其祭器モ亦金ク仏若クハ三昧のナルヲヤ



山門ノ前面ニ於ケル文字

○屋根(下等建築)

垂木ハ下等建築ニテモニク軒ニスルガ多シ、
下軒ハヨクノ下等建築ナリ
垂木ノウラ板ハ竹ノ細代ニテ張リ其上ヘ葺
ヲ水平ニ并ベ、ソノ上ニ土ヲ置キ瓦ヲ葺ク、
野木舞、野地ナドナシ、
瓦壁ハ雀口ヲ兼子デコレハ稍完全ナリ

瓦壁ハ上図ノ如クカラ草瓦ヲ堅クメ
込ム装置ヲナセリ、

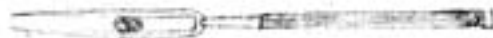


○清国食器

匙子



叉子



筷子



酒壺

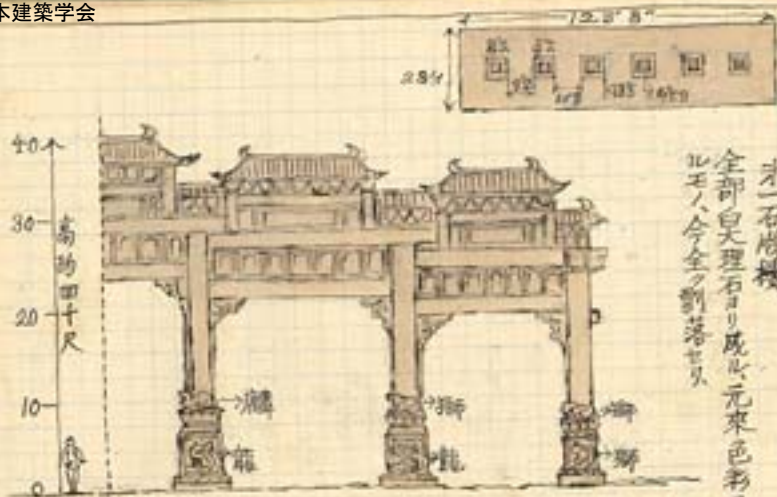


臭大



自北京
昌平途上





十三陵

才一石牌坊

全部自大理石より成り、元來色彩ヲ施セ
ルモノ、今全ク剥落セリ

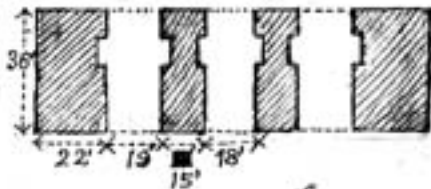
牌樓、北約五百間に上テ

△大紅門

三石三郎と云ふ
る親造なり。

内部は皆アチを
あす。

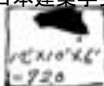
斬る皆石達あり。


$$\begin{array}{r} 10 \\ 18 \\ 12 \\ 19 \\ 17 \\ \hline 76 \end{array}$$

大紅門ノ北千石間行ミ碑樓アリ、樓ノ前ニ一對ノ
華表アリ、八角ノ臺上ニ八角ノ柱アリ、トキカタル
アリ、其上ニ望天虎ト云ふ龍ノ如キ動物坐セリ、
柱ニハ雲龍ノ高彫アリ、カタルノ下ニ雲ノ貫アルヲ
天安門前ノモト酷肖セリ

終一面ノ大サ一尺九寸、臺ノ面下テ四尺一寸五分
全高三十六尺許リカリ

臺ノ彫刻甚ク精妙ナリ
標ノ後ミ亦之ト全標ナク對ニ華表アリ



コノ葦表白リ以北

約二十五間、間隔ニテ動物之石像聯列セリ、

才一 堅獅

第二立獅

才三 麒麟(獅南双蹄)

第四立麒麟

才五 坐馬

才六立馬

才七 坐像

才八立像

立像尤モ大ニシテ巧リ造リ通シ右造ニ適當ナル形ナレバ
ナリ、高サ五丈余、長サ二間余、基石ニ造リ出シセ
リ

第九座麒麟

第十立麒麟

第十一坐馬

第十二立馬

第十三武官

第十四武官

第十五文官

第十六文官

第十七文官

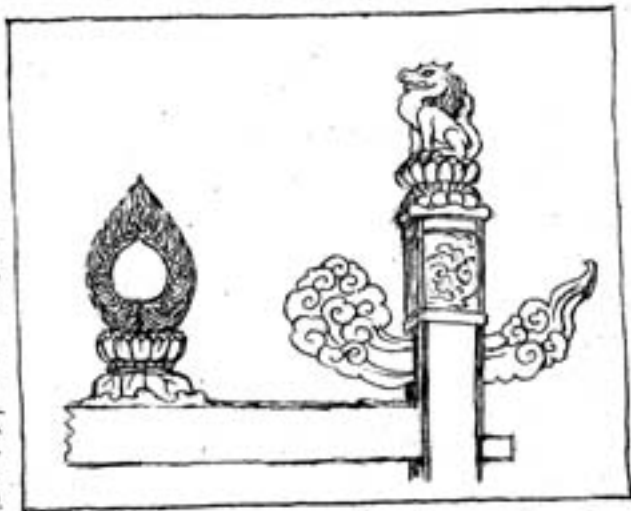
第十八文官

コノ行列尽クル所ニ

△石門

アリ、三間三關、形式全ク北京天壇ノ改築ノ前
ニ於ケルモノ、均シ、タビコレハ柱ノ形式、碑樓ノ前後ニ
於ケル葦表ト全上ニシテ上ニ龍(在天虎下物ス)
ノ坐像ヲ置キ、雲形ノ貫ヲ通シタリ、又楣ノ上ニ
寶珠ヲ置キタルハ尤モ珍奇ナル手法ト云フベシ。

コノ門マデハ即チ十三陵ノ露門ナリ門ヲ入レバ十三陵各
所ニ散在シアリ高シテ成組ノ陵ハ其尤モ大ナルモノナリ





長陵(成祖文皇帝)

單層每屋三間

後恩門

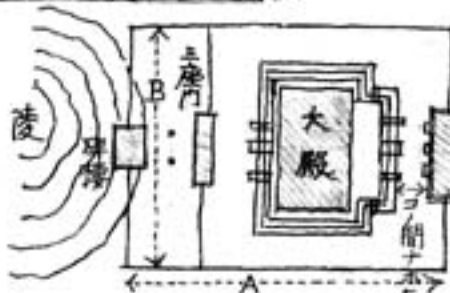
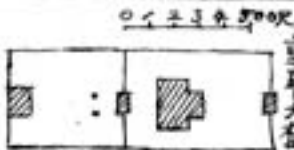
碑樓

單層每屋五楹三間

コ船ナホ長シ

後恩殿

重層九楹



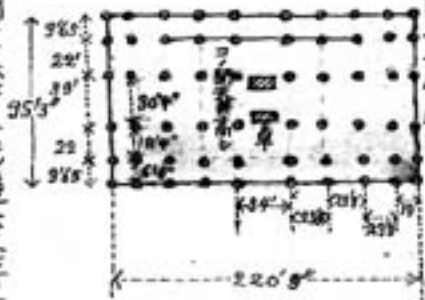
$$A = 2\frac{1}{2}B \text{ 位ナリ}$$

△コプラン他ノ十二陵ニ於テモ亦タ全様ナリ、只タ規模ノ小ナルヲミ。而シテ門、位碑殿(長陵ノ場合ハ大殿ト稱スルモノ)及碑樓ハ尤モ欠クカヲサレモノトシテ存セヨ。

△大殿（五百八十四坪八合）

九間五面、重層四注

五



内柱周即十二尺(至五尺六寸)礎六尺七寸方

他、如クヨセ集メニアラズシテ天井マデ一本ノ木ナリ。

實ニ轉有ノ例ナリ。

外柱前面六直徑二尺五寸三寸側面六尺八寸計

天井ノ色彩及模様ハ清々ノモノト全ク其趣モ

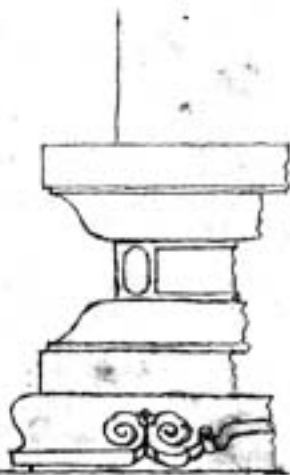
異ニ格蘭ニ磨花ヲ画キ甚ダ美ナリ

△碑樓

樓肉之碑アリ成祖文皇帝之陵ト題セリ古く色彩アリモ今ハ全ク剥落セリ其形式北京ノ鐘樓ト全ク相似城壁様ノ高基臺ノ上ニ重層ノ樓アリ

三 成祖文皇帝之陵碑

モリスデング軍廟ふれと力あり



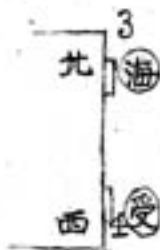
○居庸関

1. 清、持国琵琶、

2. 紅、増長、劍、

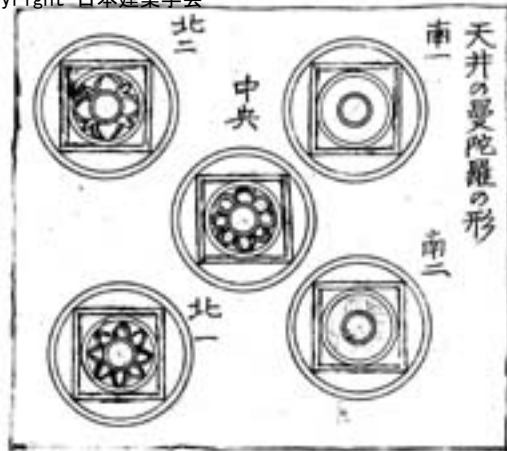
3. 海、多聞、傘、

4. 受、廣目蛇と玉、





明治三十五年歲次乙酉九月吉日

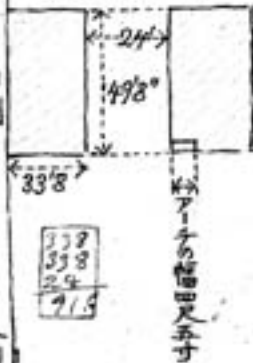


内外ノ彫刻精巧堅固くべし仙像ニ於ケル模様ノ
意匠精微ヲ極メタリ
空り窪ノ構造ハ一種異様ニシテ五角形ノ形
ヲテ上ノ部分ハ八角形ノ形ニナリ居セリ
西側中央ニ至正五年〇〇乙酉九月ノ銘アリ
魔利紅ノ左ノ縁ノ左ノ銘アリ
正統十年五月十五日功德
天信官林普賢養心修造
コレハ明ニ修造シテ彫リ入レルナリ明ノ修造
ト見ユル所々ニアリ

慈又陀羅

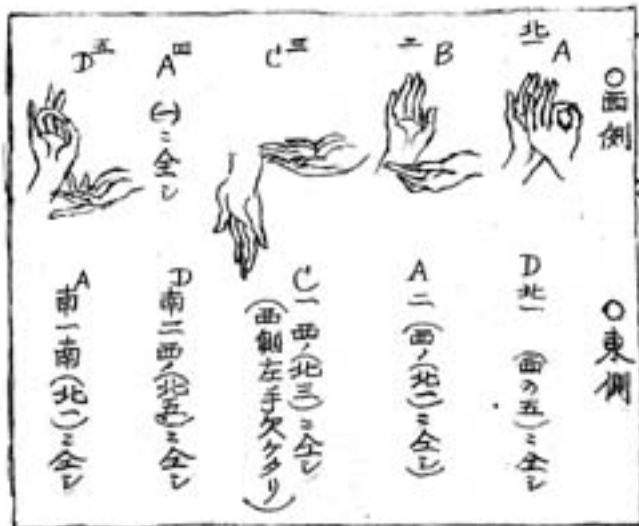
居庸關

銘至正五年歲次乙酉九月吉日
西蜀成都寶積寺僧 德成 書



○西側

○東側



高欄



居庸關建築示説

未だ沿革の詳あるを知らずと雖至正五年の銘あるを以て見れば元代に於て造立せられたることを知るべし、但し、長城の關門なるに非ずして單に國道の一關門なりしものと如し、其裝飾の有様は圖に於て示すか如く著しく、造作的の手法あり。

第一五南のアサの周圍ある手法は五尺の常に目撃する所の仏像の光背等と全一のものあるが、ハンラムの頭は七頭あり、此殆ど西藏純粋のものあり、後世に至りて頭の蛇を除去したるものを生じたり。

第一内部の四天王は北京附近の寺院に於て見る所とより相似たり、只な其姿勢の雄壯なるに他なるものは優れり、第三内部の仏像の其向たるを詳にせされば、ラマ教の佛像と全しある印相を終り。

第四天井のマンダラ特殊あり、第五、第六精巧なる造匠と巧妙なる手工を繰はせり、第六、第七の西蔵蒙古の文字は奇絶あり。

要するにこの關門造立の廢已年大なるラム宗の顯著ありしことを知るべし、元は隙く、これを信せし的事实に據するも、其六、第七の大小なるを卜すし、又藝術上元代の價值を知るべき微証と申さるべし、おほき精細に研究するの質充分あるものあり。



八達嶺より東方を望む（万里長城）

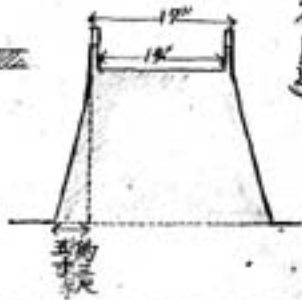
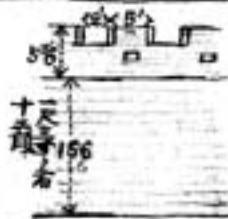
第一號





富道より新林に至る大沙原

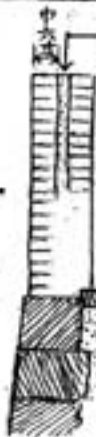
○万里長城（八達峯附近）



塹口ノ図

中矢式

敷瓦



○望楼
大サハ内法四間二尺位、アチ
ノ窓ヲ開ケル

Plan.



24

懷來

泰山廟(道教)

屋根ノ構造尤モ奇ナリ

鴟尾亦異ナリ

背ノ中央、脊ノ如キモノヲ道リスノ左右各六人

武装セルモノ騎馬ノ像ヲ載セタリ

鬼龍子中ニ與アルモ一奇ナリ

旁吻ノ上ニ人ノ騎セルモ奇ナリ

下リ棟ノ上ニモ鬼龍子アリ

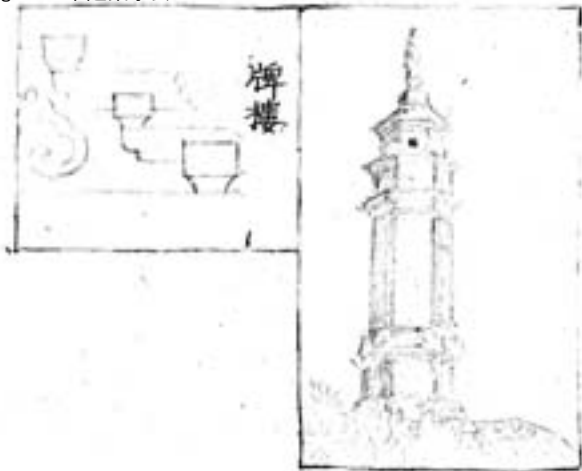
桁隠ノ様手法アリ、懸奥ニ似タリ

旁吻ノ形、正吻ニモコノ形ヲ費用セリ

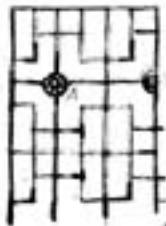
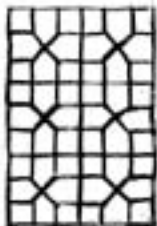
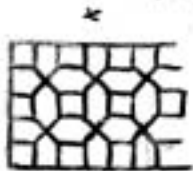
五

小屋ノ隅





コノ村ノ家屋ハ一種特別ニテ店ノ前ニ一聞
許リノ廊アルヲ日本ノ雪国ノ如ク軒ハスグ
破風ヲツケ足シタリ又流シ破風ノ如キ
手法モアリ



all
blue.



コノ面戸ノ形
特異ナリ



○瓦

半円形ノモノヲ用テ左ノ如キ形ニ造ル



●土木堡

△劇場

(この附近の村落には入口と出口に鎮守の如き神社ありこれに附屬して手踊りの舞臺あり如きありこれ即ち之なり)

ゲブルの中央にゴシック風の形ありて、唐の壁を以て充填したものが其中央に日本の大草摺の口に類似せるものを有するものあり

破風尻九

丸垂木の末端は下如き奇なる手法を施すものあり

⊕



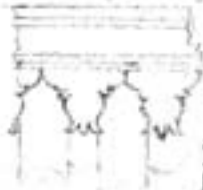
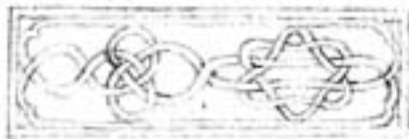
○新保安

夾頭 意匠頗る豊富あり

⑬



某町家軒欄間



面戸反にも非常に多様なる
意匠あり、其の如く
あるとき、面
戸にあらず、寧ろ
棟の裝飾
的手法あり



懸奥の
形種々
あり





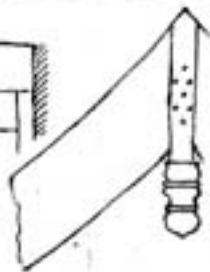
晦水館附近より黄陽山を望む

第二號

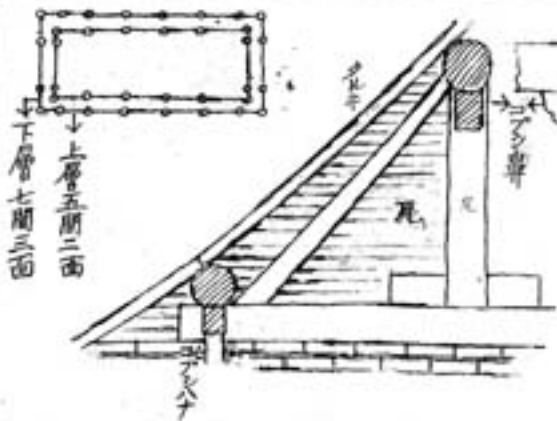


宣化

宣化城南門



酒壺



桐子(町家ノ店先キニ必スアリ)

輪廓白

藍 紅 藤

紅 緑 藍

コノ外又多少異形アリ、余ノ意ニ依リ以テ
ナク無数ノ變形ヲ作ルヲ得
我國ノ所謂金剛柵又ハ金剛垣ト全然
全ク意匠ニ成ル頗ル奇ナル所以ナリ

卒緒姿に似る

某堂に於ける破風群々の装飾(瓦)



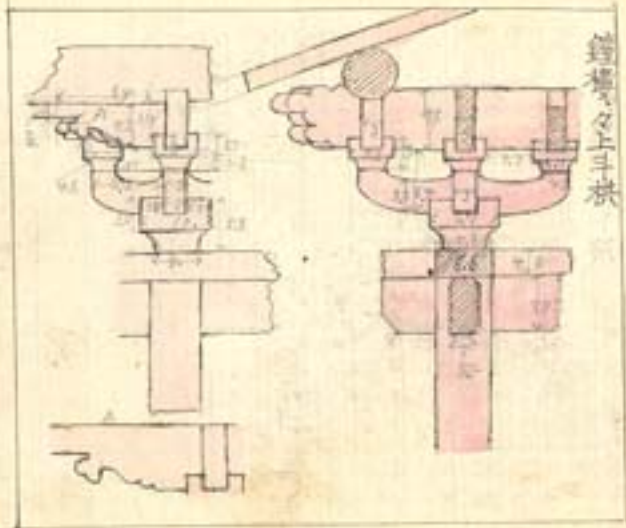
△鍾樓

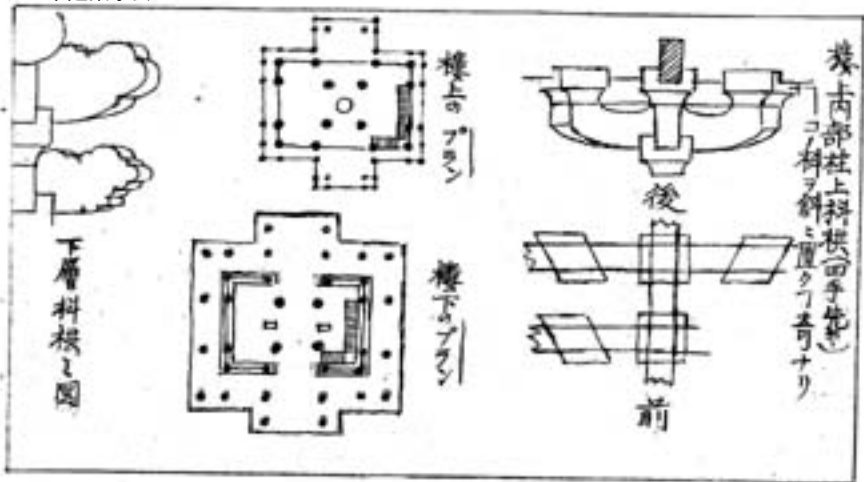
三層入母屋、前後に二層ありて前に入母屋の妻を
出せり故に二層は左図の如くになり居れり



1715
1715
1715
↑







樓の下層に二つの碑あり、左の如し

(1) 碑銘

大明弘治七年歲次甲寅九月上日

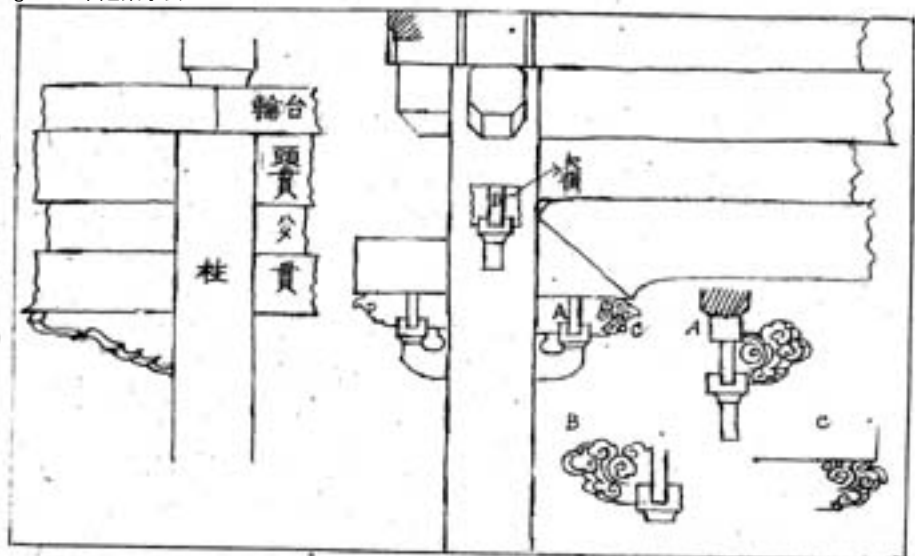
(2) 又重修清遠樓記と題して碑文あり

終りに

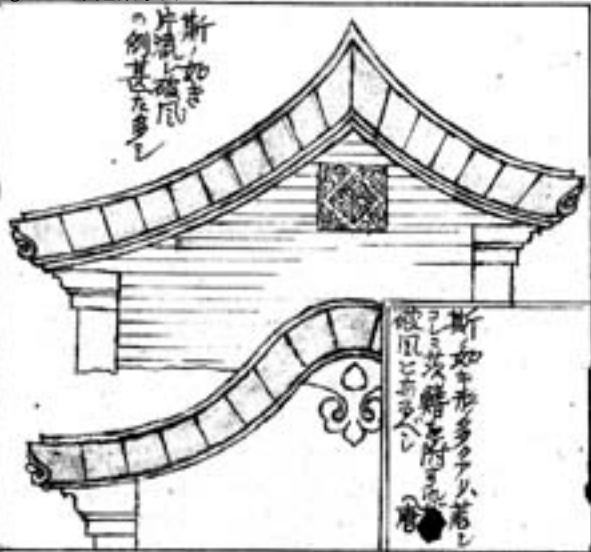
乾隆歲次戊辰閏七月朔日文林郎宣化
知縣加一級西蜀雷時建立
とあり

此の碑文は明代の建築は大破に及ばず、
剥落せしを以て修繕せしと云ふ、明代の様
式は多く変せざれりとして保存せりと見え、
要するに明代の建築の好遺物は、その
基礎は、
奉天昇平寺の絵様の手法、虹梁の形皆
我國の建築と酷肖し、親密なる關係ある
ことを示す、誠は歴史上有益なる建築と
云ふべし、殊に建築として形式を調ひ手
法を見るに足るもの多し

○因に曰く、證據に不十分にして見ることを得ざりき
鎮樓は市の中、央にあり、其後に鐘樓あること北
京に同く、是れ大なる都城に於ける定法と覺ゆ



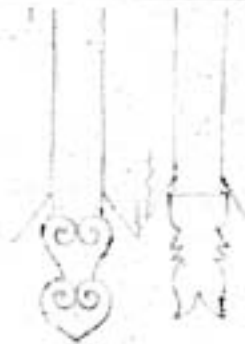
市街の家ニ階屋由少から又前には厩屋
根を付くる結果流し破凡程ある如き
生まると多し、又唐破凡と似たる破凡の形を
目する、此屋根の配の關係あり、又ゴレタ的
の小品壁飾りにより發達し従々數層まで
あり
材料は木あり瓦ありあり



斯如き
片流し破凡
の例甚だ多し

斯如き形多クアリ、若し
破凡とありてハ、唐破凡とありてハ、

△万寿宮十三
懸奥は面白き形あり



△玉皇閣

懸奥の完全なるもの見るは妙なり



下層閣の構造

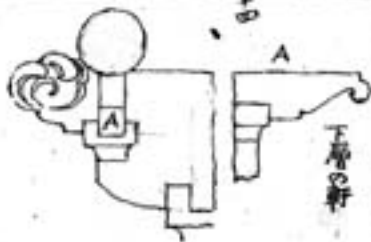
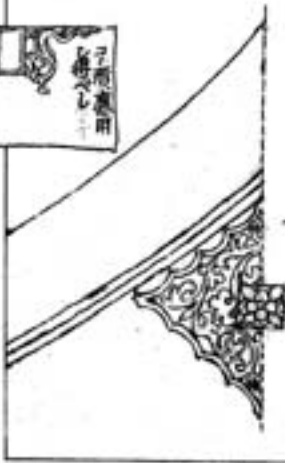
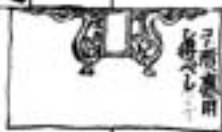
第三層ノ軒



康熙五十六年重修ノ碑あり



終



コノ建築様式ト殆ントコノ
建築様式の意匠とは
壁のヴォールト及上の建築
のフアン及びエレメンツ
共に面白シ



今1名
Nassite

今1名
Nassite

Listing of Indian buddhist temples

古ノ名	今ノ地名
Nalanda	Gaya 東北 べンガル州
Baddhagaya	Gaya べンガル州
Pundarik	Rajapur 18世紀
Visari	darbhanga 18世紀
Kushinagara	Matilani, 西
Sarnath	Benares
Kapilavastu	Stranti 18世紀
Slavasti	Bharatich, 東
Sankissa	Soron 18世紀
Saketu	Lachunow 18世紀
Mangakala	Lahor, 北
Taxila	Attok 18世紀
Jamalgiiri	Peshawur, 北
Tatta	Tatta
dhumner	Mandator 18世紀
Kolvi	"
Bhilisa	Bhilisa
bagh	Thabua 18世紀
Chinar	Jumlagach 18世紀
Ajanta	Ajanta
Ellora	Ellora

寺ノ名

達摩老祖以後分二宗

曰南北

関支那佛教歴史別有書契可
徴只欲知現在佛教之宗派已耳

悠^シ漫^ト淺^ク屋^ヲ

は湯を内見しおさいま
せんか

回^テ頭^ヲ説^ク罷^ル

あつては誰しかりや

我^ガ雇^メ車^ヲ来^リ

私は車を雇て来て下さい

就^チ去^リ

今すぐ来りあす

借^リ光^ヲ

内免(往來で人々ある事)

不^レ行^ク

いけません

鑰^ヲ匙^ヲ

鍵

漱^ク堂^ノ子^ヲ

浴室

食^ハ厨^ヲ見^ル

食堂

洗^フ藥^ヲ

浴室

借^リ

カリル、カス

借

借

借鏡我
借鏡悠

弄贗了
也是

カリル、カス

カレテクレ

カレテヤロー

持テアマレタ

矢ッ張ッ

汗襦見

襦袢

袴子

股引

袴子

袴

袴子

袴ノ上衣

袴子

袴子

那一天

何日カ

紙

紙

紙

紙

は思ふて且うごうき

は思ふて且うごうき

墳墓

茅草又草屑

在

不似高

紅燒湯

湯麵

無白

音州

道典

麵

對不起

也許是

此寺屬何宗乎

稻林宗派和尚山誌

稻林宗派是稻林之一宗派乎將
屬他之一大宗派乎

尾佛教有稻林宗、創之師、律、華嚴、
天台、真言、密、稻林寺是稻林宗乎、
稻林寺別立一派、獨立之宗乎、

宗門教

阿難^下照葉^中

聖^上是菩薩



下六十七坪半
二層十五坪半
合八十三坪
一層要約七十坪
合五十八坪十坪

英林

一若曰夫劍者軍中之利器也佩劍者所以振聲威衛身體也故於營軍經武之際則不可不佩也羅捕以武不可不佩也其不然則聲威無以振也身體無以衛也故軍經武巡邏捕盜皆因之不力也

問案情之法

2

者盜賊之事其原因始於情与慾二者故探索之策即依盜賊之共情慾者而偵查之如賊之情婦与賊之恩人之類是也

北京市後門黑芝麻胡同
聖務堂公館

廟 西十二號

村名

這廟殿內有古碑

是明碑

碑文已模糊

碑文

占樁碑

旗樁

千仞



降梵杵

双

頭

輪

赤牛

龍

日本建築学会
出版
昭和
三十四
年



廣化寺萬壽寺

廣化寺萬壽寺

大鐘寺百味寺

圓應寺手持

消災延壽藥師

庵末羅果佛

密祖

龍首一切菩薩

1

上
位
官
俸

清國
自北京至張家口
第一冊

清國

自北京
至張家口

第一卷

原 太
巷 寺 新 裏 門 南 新
晉 通 棧
元 記

修業人玉章

展席屋門在青橋南口中開
素勢橋下車
南口新

居席角二等火車票

上元

共銀 拾元

四十四元八毛八

書

四十四元八毛八

生三人 有十餘日

我們要看門

凡科房書卷者，五年無過，即考試。
凡明白，即取。出吏員，由吏員可以出。
他處，作典史，驛丞，等職。

州如事，極繁，急事，巡捕，凡境內人
有案，防是，於如，收，少，不，如，利，其，由，其，定
其是非，地方上，凡有一切事，如，
兵刑，工，兵，事，均，起，可，如，

吏，從，從，境內，切，人，及，在外，做，收，人，事

戶，又，如，戶，田，土，對，戶，產，出，事

稅，籍

兵，又，查，保，甲，一，類

刑，人，凡，有一切，事，如，并，初，刑，人，事

親，又，禁，託，託，店，祀，即，武，考，試

又，一，切，水，陸，一，程